

2021年11月4日（木）

結婚トレンド調査2021

コロナ禍で結婚式を挙げた人で「自分の人生が好きになった」は7割以上で昨年調査から増加。背景には、コロナ禍で迷いながらも結婚式実施の決断をした姿が

招待客一人当たりの料理単価、ギフト単価は昨年比で増加し、
おもてなし志向は引き続き高まる傾向に

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）が企画運営する結婚情報誌『ゼクシィ』では、新婚カップルの結婚スタイルについて詳細に把握するために、毎年「結婚トレンド調査」を実施しています。調査結果の一部を抜粋してご報告申し上げます。

二人が結婚式を通して得たことは、「自分の人生が好きになった」72.9%で昨年の調査から6.4ポイント増加。9割以上が、「人生の節目である結婚に際して結婚式を行って良かったと思う」「結婚式を通して、二人の絆が深まったと思う」「結婚式を通して、列席者から二人が応援されていると感じた」と回答。（→P3）

コロナ禍で、結婚式を実施することを迷ったと答えた割合は9割。

コロナ禍で実施に踏み切った理由は、半数以上が「親・親族が背中を押してくれたから」と回答し、最多。「衛生面で安全な実施が可能だと思ったから」が次いで高い。また、入籍から挙式までの期間の平均は8.5カ月で、2013年調査以降、最も期間が長かった。（→P4-5）

コロナ禍による挙式、披露宴・ウエディングパーティーへの影響があった人は、95.9%。

影響の内容は、「列席者・招待客を限定した」「アルコール消毒液を設置、配布した」「テーブルコーディネートで感染症対策を行った」等、感染症対策として実施した内容が上位を占めている。（→P6）

演出を決定する際に心掛けたこと、「アットホームなムードになること」が昨年の調査から4.1ポイント増加。

「親の気持ちや意見を大切にすること」も、昨年の調査から微増。披露宴・ウエディングパーティーに関して実施した演出においても、ゲストとの心理的な距離を縮める工夫や、親へのプレゼント関連が、昨年の調査から増加している。（→P7）

会場決定後のオンライン打ち合わせへの会場の対応割合は、時期を追うごとに増加し、2021年1月～3月には半数以上。

オンライン打ち合わせを「利用した」割合は、2020年4月以降、40%前後で推移。利用理由としては、5割以上が「感染症などでも安全に利用できるから」「実際に足を運ぶ時間を取られないから」と回答。（→P8-10）

挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額の平均は292万3,000円で、昨年の調査から70万円減少。

新型コロナウイルス感染症の影響により、挙式、披露宴・ウエディングパーティーの予算・金額を当初予定より縮小して実施した人の縮小した金額は、平均124万8,000円縮小となっている。（→P11-13）

披露宴・ウエディングパーティーの招待客人数の平均は42.8人で、昨年の調査から23.5人減少。

新型コロナウイルス感染症の影響により、挙式、披露宴・ウエディングパーティーを「招待・参加人数を縮小して実施した」と回答した割合は7割以上。（→P14-16）

招待客一人ひとりへのおもてなしを重視する傾向。

一人当たりの料理費用〔飲み物を除く〕の平均は1万6,100円で、年々増加傾向にある中、昨年の調査からは500円増加。一人当たりのギフト費用の平均は6,800円で、昨年の調査から900円増加しており、ここ7年間で比較すると2019年調査と並んで最も高い水準。（→P17-18）

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

調査概要と回答者のプロフィール

調査概要

- 【調査方法】 郵送法
- 【調査期間】 2021年4月1日（木）～5月10日（月）
- 【調査対象】 北海道、青森・秋田・岩手、宮城・山形、福島、茨城・栃木・群馬、首都圏、新潟、長野・山梨、富山・石川・福井、静岡、東海、関西、岡山・広島・山口・鳥取・島根、四国、九州の『ゼクシィ』読者およびネット会員のうち、2020年4月～2021年3月に挙式または披露宴・ウエディングパーティーを実施した人
※2020年4月～2021年3月に結婚・結婚予定があった『ゼクシィ』読者およびネット会員に対して、地域ごとにランダムサンプリングし、事前調査で許諾を頂いた方に対して調査票を郵送。調査票への記入は妻に依頼。
事前調査 … 調査票発送数：3万6,295件 調査票回収数：5,385件 回収率：14.8%
本調査 … 調査票発送数：5,286件 調査票回収数：3,724件 回収率：70.5%

【集計サンプル数】

計3,586人〔北海道：191人、青森・秋田・岩手：113人、宮城・山形：98人、福島：85人、茨城・栃木・群馬：239人、首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）：657人、新潟：152人、長野・山梨：139人、富山・石川・福井：134人、静岡：135人、東海（愛知・岐阜・三重）：452人、関西（大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山）：529人、岡山・広島・山口・鳥取・島根：253人、四国（愛媛・香川・徳島・高知）：106人、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）：303人〕

※「地域別」の集計で集計サンプル数が100人未満の地域は、参考値としてご覧ください。

※地域別の集計は「結婚前の妻の居住地」で行っています。

※全国集計については、各地域の婚姻件数（令和元年厚生労働省人口動態調査）に合わせてウエイトバック集計を行った推計値を掲載しています（全国＜『ゼクシィ』発行地域外〔沖縄〕を除く＞の婚姻件数合計は59万980組）。

※図表中の「-」は回答なし、「0.0」は回答はあるが単位未満、「*」は該当する項目が存在しないことを示しています。

※本文中で使用している時系列のデータは、それぞれ過去に実施した同調査のデータです。調査方法、調査対象者は本年と同様、集計サンプル数については下記の通りです。

	全体	北海道	青森・秋田・岩手	宮城・山形	福島	茨城・栃木・群馬	首都圏	新潟	長野・山梨	富山・石川・福井	静岡	東海	関西	岡山・広島・山口・鳥取・島根	四国	九州
2020年調査	5392	299	149	222	161	319	911	132	195	180	182	776	858	295	173	540
2019年調査	5147	319	147	251	131	325	776	152	192	198	173	732	749	288	190	524
2018年調査	5138	294	150	270	160	411	784	160	196	223	171	513	729	312	213	552
2017年調査	5123	329	212	275	134	341	750	132	202	198	173	578	744	285	196	574
2016年調査	5223	330	139	295	131	364	856	133	168	156	203	616	860	328	148	586
2015年調査	5701	336	176	259	144	396	794	148	164	173	247	797	798	387	163	719

※2016年調査では、2016年4月に発生した平成28年熊本地震の影響を鑑み、熊本県の調査はしていません。

※2020年調査より、調査票全般にわたって、文言を「披露宴・披露パーティー」から「披露宴・ウエディングパーティー」に変更して聴取しています。

回答者のプロフィール

■ 結婚時の夫・妻の年齢（全体／単一回答）

	全国(推計値)							地域別														
	2021年調査	2020年調査	2019年調査	2018年調査	2017年調査	2016年調査	2015年調査	北海道	青森・秋田・岩手	宮城・山形	福島	茨城・栃木・群馬	首都圏	新潟	長野・山梨	富山・石川・福井	静岡	東海	関西	岡山・広島・山口・鳥取・島根	四国	九州
24歳以下	4.9	6.8	8.2	7.8	7.3	7.0	6.7	7.3	2.7	10.2	10.6	5.0	3.8	5.3	5.0	3.7	5.2	5.1	4.3	7.9	13.2	3.3
25～29歳	47.6	49.8	47.3	48.2	48.2	49.1	45.9	46.6	56.6	41.8	47.1	48.1	50.2	40.1	43.9	43.3	40.0	53.3	45.7	49.0	39.6	42.9
30～34歳	30.2	27.8	26.9	28.6	28.0	27.6	28.6	32.5	28.3	28.6	23.5	31.8	28.9	27.0	30.9	31.3	35.6	28.1	29.7	31.6	30.2	35.3
35歳以上	16.6	15.0	16.4	15.3	16.4	16.2	18.1	12.6	11.5	17.3	18.8	14.6	16.4	27.0	19.4	20.1	18.5	12.8	19.7	11.5	15.1	18.2
無回答	0.6	0.6	1.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.9	2.0	—	—	0.4	0.6	0.7	0.7	1.5	0.7	0.7	0.6	—	1.9	0.3
平均・歳	30.3	29.8	30.0	29.9	30.0	30.0	30.3	29.6	29.3	30.5	30.0	30.2	30.4	31.3	30.4	30.7	30.8	29.6	30.7	29.6	29.6	30.8

	全国(推計値)							地域別														
	2021年調査	2020年調査	2019年調査	2018年調査	2017年調査	2016年調査	2015年調査	北海道	青森・秋田・岩手	宮城・山形	福島	茨城・栃木・群馬	首都圏	新潟	長野・山梨	富山・石川・福井	静岡	東海	関西	岡山・広島・山口・鳥取・島根	四国	九州
24歳以下	8.4	11.6	12.5	11.9	10.9	11.7	10.9	9.4	8.8	13.3	15.3	9.2	7.6	11.2	12.2	6.7	6.7	9.5	6.4	12.6	15.1	5.9
25～29歳	57.7	58.5	56.6	56.9	56.6	56.8	54.3	58.1	61.1	58.2	55.3	58.2	58.4	49.3	56.1	55.2	56.3	64.6	55.2	56.1	52.8	56.8
30～34歳	24.7	22.2	21.4	22.7	24.7	23.2	24.4	22.5	24.8	19.4	18.8	23.4	23.4	29.6	22.3	28.4	27.4	19.0	28.0	23.3	27.4	30.4
35歳以上	8.6	7.1	8.4	8.4	7.7	8.2	9.6	8.9	4.4	7.1	10.6	8.8	9.9	9.2	8.6	8.2	8.9	6.2	9.8	7.9	27.8	6.9
無回答	0.6	0.6	1.1	0.1	0.1	0.1	0.7	1.0	0.9	2.0	—	0.4	0.6	0.7	0.7	1.5	0.7	0.7	0.6	—	1.9	—
平均・歳	28.8	28.3	28.4	28.4	28.6	28.5	28.8	28.5	28.3	28.4	28.6	28.7	29.0	29.1	28.5	29.0	28.9	28.1	29.2	28.4	27.8	29.0

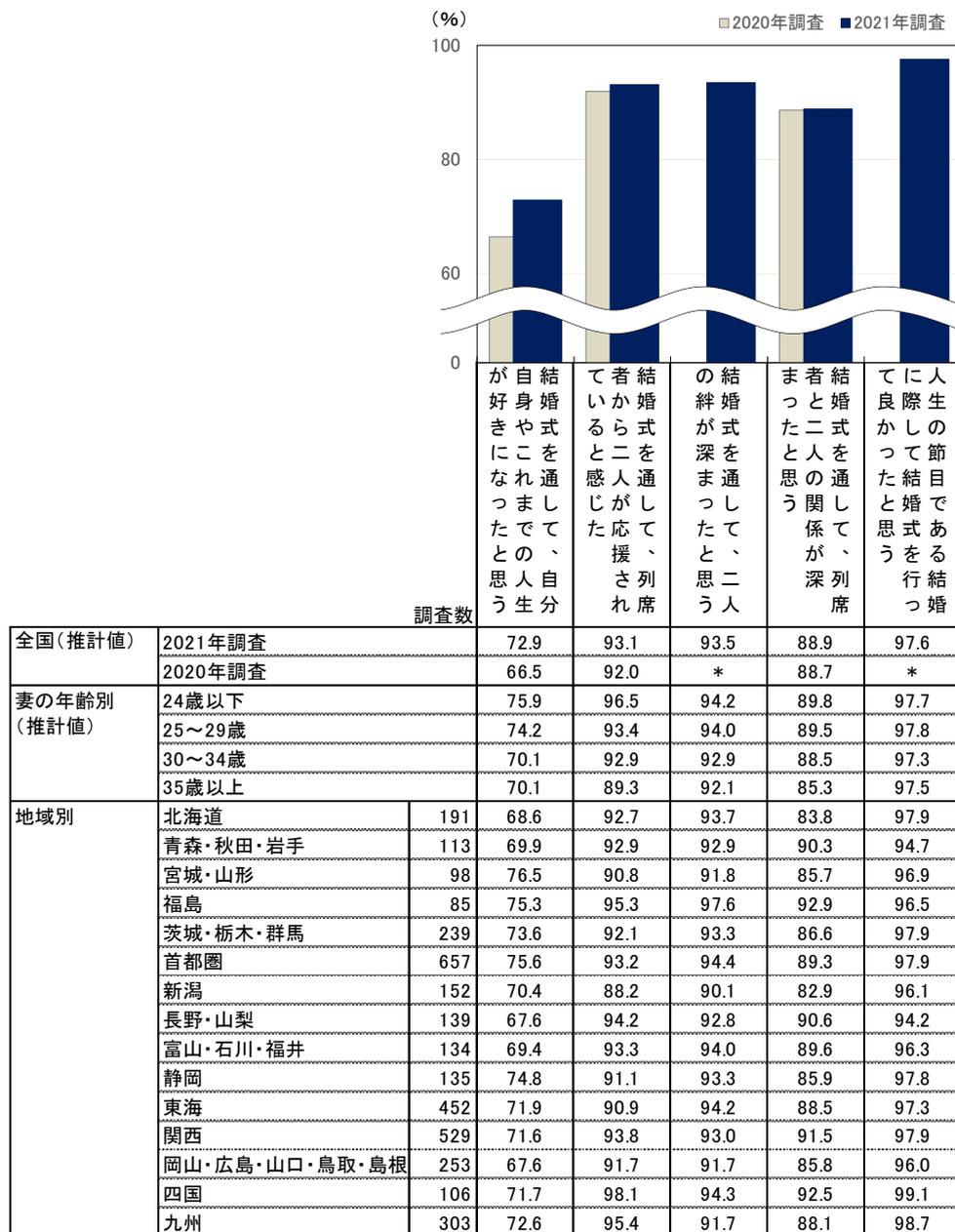
■ 結婚前の妻の居住地（全体／単一回答）

	北海道 (n=191)	青森・秋田・岩手 (n=113)	宮城・山形 (n=98)	福島 (n=85)	茨城・栃木・群馬 (n=239)	首都圏 (n=657)	新潟 (n=152)	長野・山梨 (n=139)	富山・石川・福井 (n=134)	静岡 (n=135)	東海 (n=452)	関西 (n=529)	岡山・広島・山口・鳥取・島根 (n=253)	四国 (n=106)	九州 (n=303)
札幌市	61.8	青森県 22.1	宮城県 73.5	福島県 100.0	茨城県 35.6	東京都 45.8	新潟県 100.0	長野県 75.5	富山県 38.1	静岡県 100.0	愛知県 71.7	大阪府 42.5	広島県 50.2	愛媛県 46.2	福岡県 63.7
札幌市以外	38.2	秋田県 30.1	山形県 26.5		栃木県 26.4	神奈川県 24.8		山梨県 24.5	石川県 39.6		岐阜県 19.2	兵庫県 24.4	岡山県 30.8	香川県 30.2	佐賀県 3.6
		岩手県 47.8			群馬県 38.1	千葉県 13.1			福井県 22.4		三重県 9.1	京都府 15.3	山口県 13.4	徳島県 17.0	長崎県 4.6
						埼玉県 16.3						奈良県 7.8	鳥取県 3.2	高知県 6.6	熊本県 9.9
												滋賀県 7.2	島根県 2.4		大分県 7.6
												和歌山県 2.8			宮崎県 4.0
															鹿児島県 6.6

1. 結婚式を通して得たこと

- 結婚式を通して得たこととして、「結婚式を通して、自分自身やこれまでの人生が好きになったと思う」が72.9%で、昨年の調査から6.4ポイント増加。
- 9割以上が、「人生の節目である結婚に際して結婚式を行って良かったと思う」「結婚式を通して、二人の絆が深まったと思う」「結婚式を通して、列席者から二人が応援されていると感じた」と回答。

■ 結婚式を通して得たこと（全体／それぞれ単一回答）

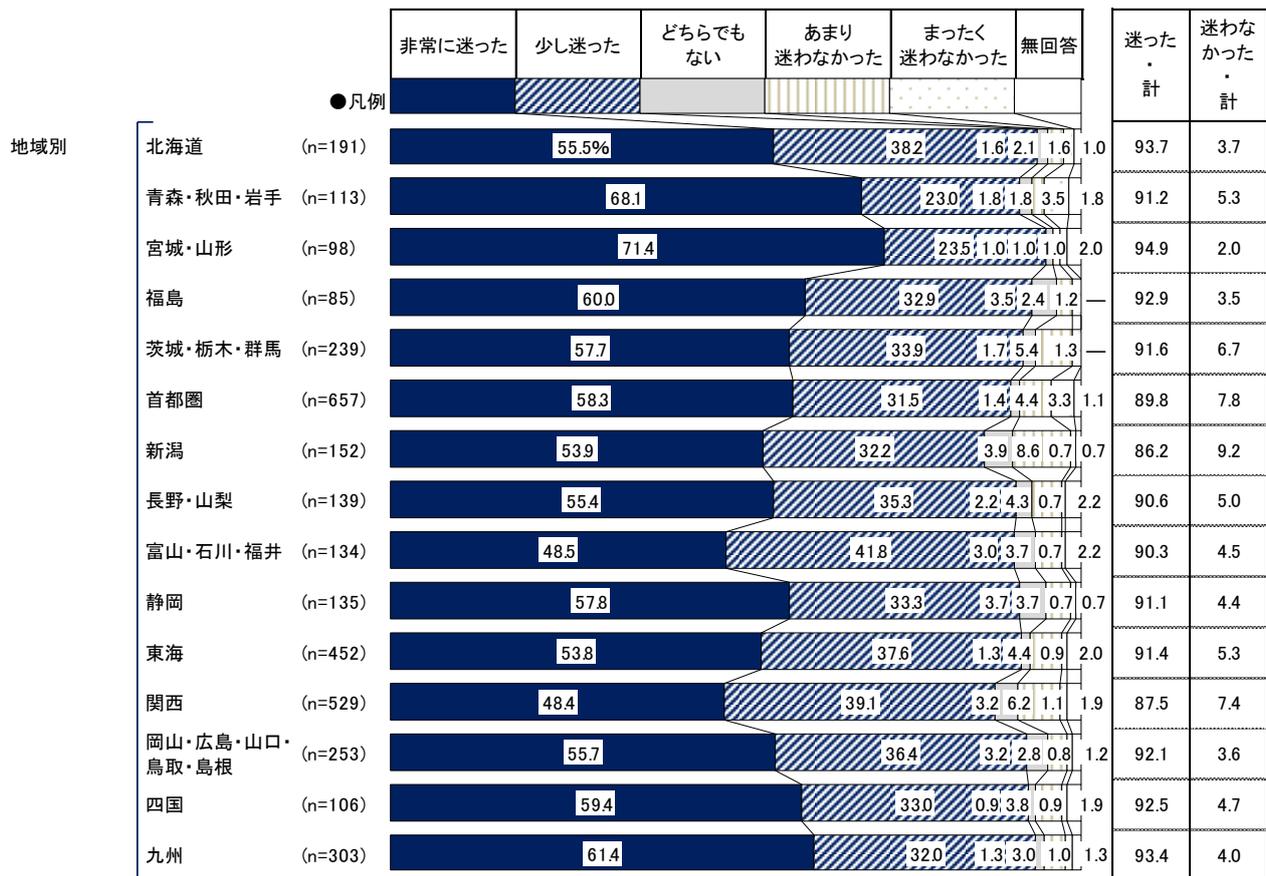
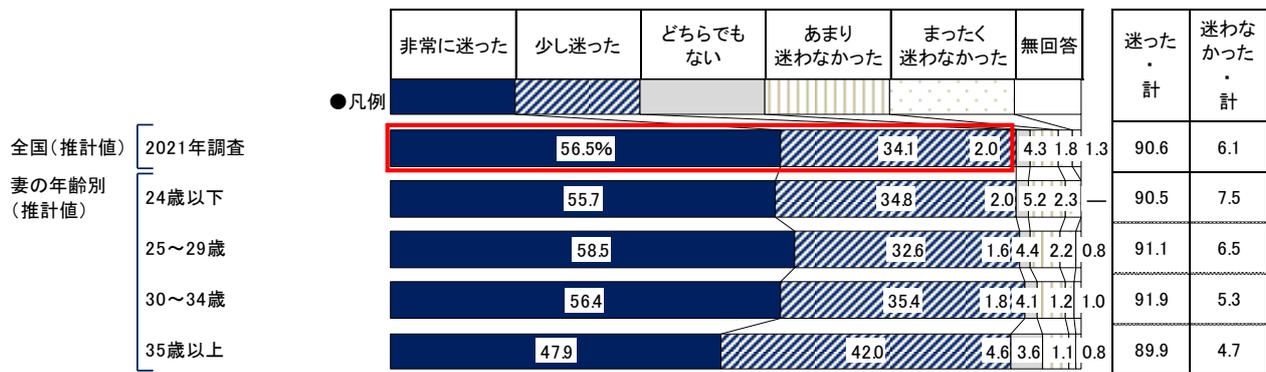


※「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階のうち、「非常にそう思う」「ややそう思う」のいずれかを回答した人を集計

2. コロナ禍での挙式、披露宴・ウェディングパーティー実施に対する考え方

▶ コロナ禍での挙式、披露宴・ウェディングパーティー実施については、9割以上が「迷った」と回答。

■ コロナ禍での挙式、披露宴・ウェディングパーティー実施をどの程度迷ったか（全体／単一回答）



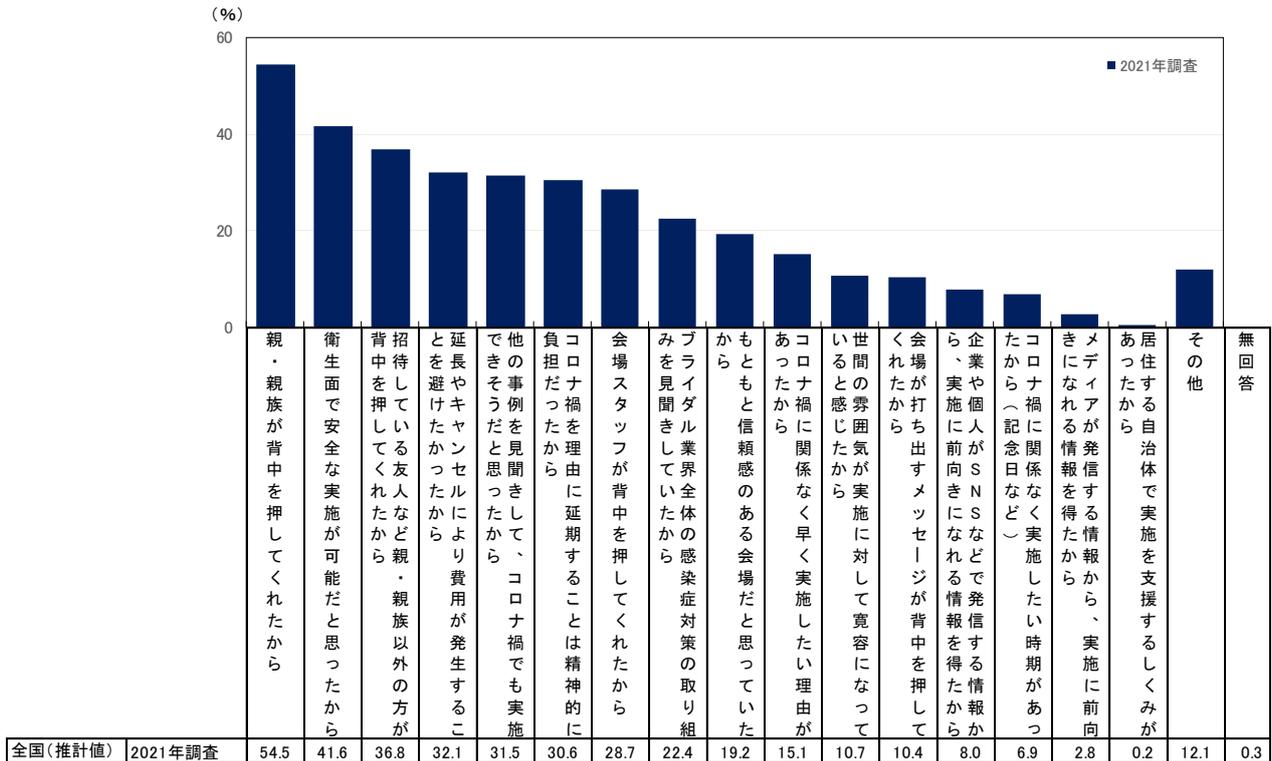
※「迷った・計」:「非常に迷った」「少し迷った」の合計値

※「迷わなかった・計」:「まったく迷わなかった」「あまり迷わなかった」の合計値

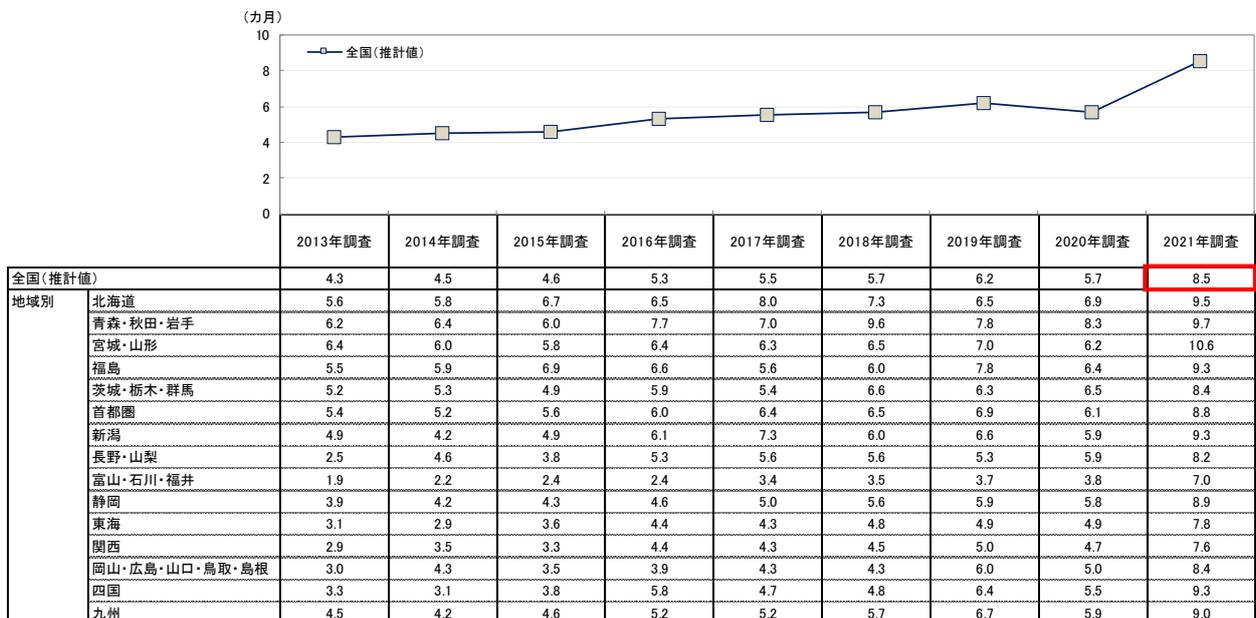
2. コロナ禍での挙式、披露宴・ウエディングパーティー実施に対する考え方

- ▶ コロナ禍で実施に踏み切った理由は、半数以上が「親・親族が背中を押してくれたから」と回答し、最多。「衛生面で安全な実施が可能だと思ったから」が次いで高い。
- ▶ 入籍から挙式までの期間の平均は8.5カ月で、昨年の調査から2.8カ月増加。2013年調査以降、最も期間が長かった。

■ コロナ禍で実施に踏み切った理由（コロナ禍での挙式、披露宴・ウエディングパーティー実施を「非常に迷った」+「少し迷った」人／複数回答）



■ 入籍から挙式までの期間の平均の推移（挙式実施者のみ／単一回答）



3. コロナ禍による挙式、披露宴・ウエディングパーティーへの影響

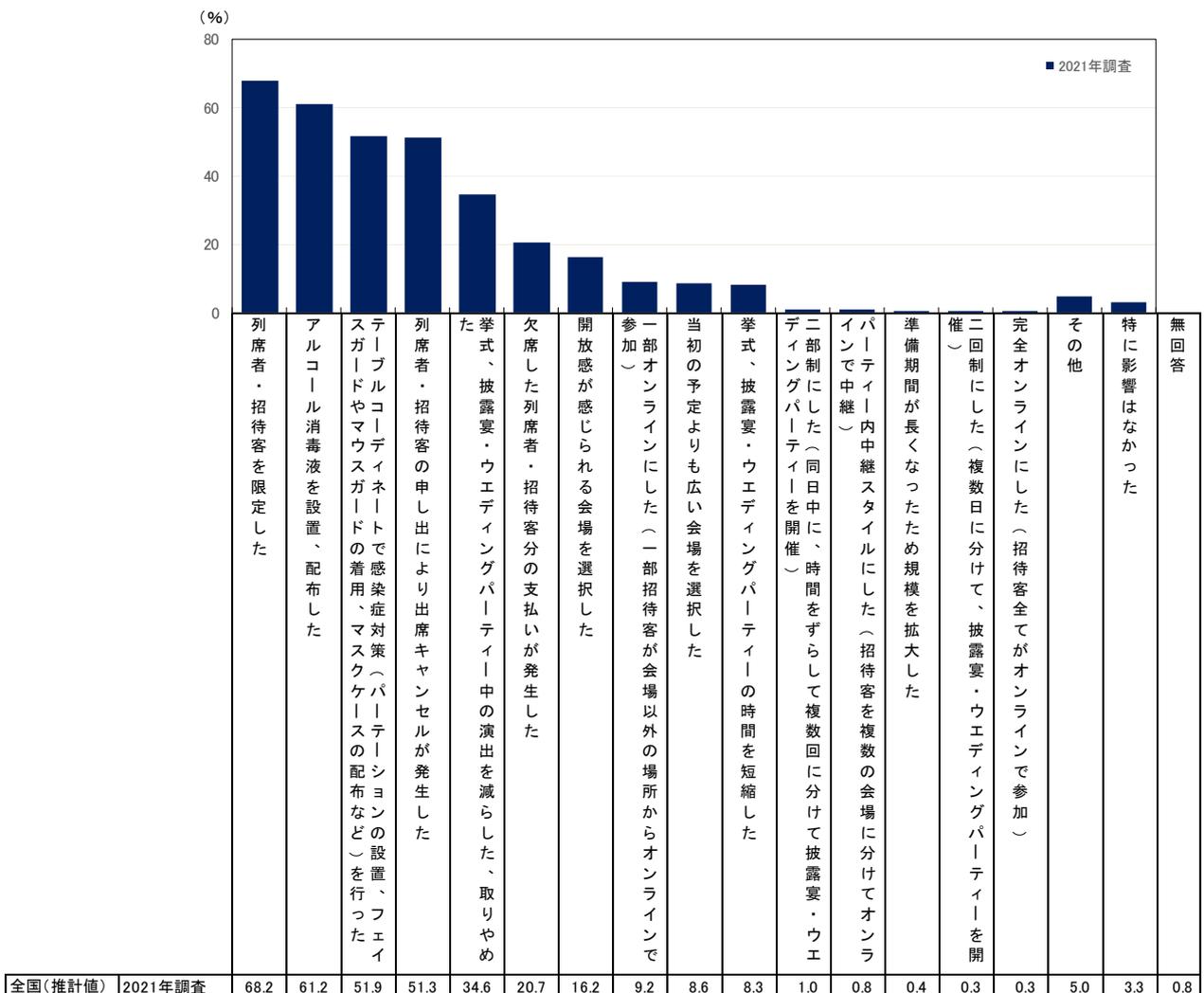
- ▶ コロナ禍による挙式、披露宴・ウエディングパーティーへの影響があった人は、95.9%。
- ▶ 影響の内容は、「列席者・招待客を限定した」（68.2%）、「アルコール消毒液を設置、配布した」（61.2%）、「テーブルコーディネートで感染症対策を行った」（51.9%）等、感染症対策として実施した内容が上位を占めている。

■ 新型コロナウイルス感染症による影響の有無（全体／単一回答）



※「影響があった」: 新型コロナウイルス感染症による影響の内容を一つ以上回答した人を集計

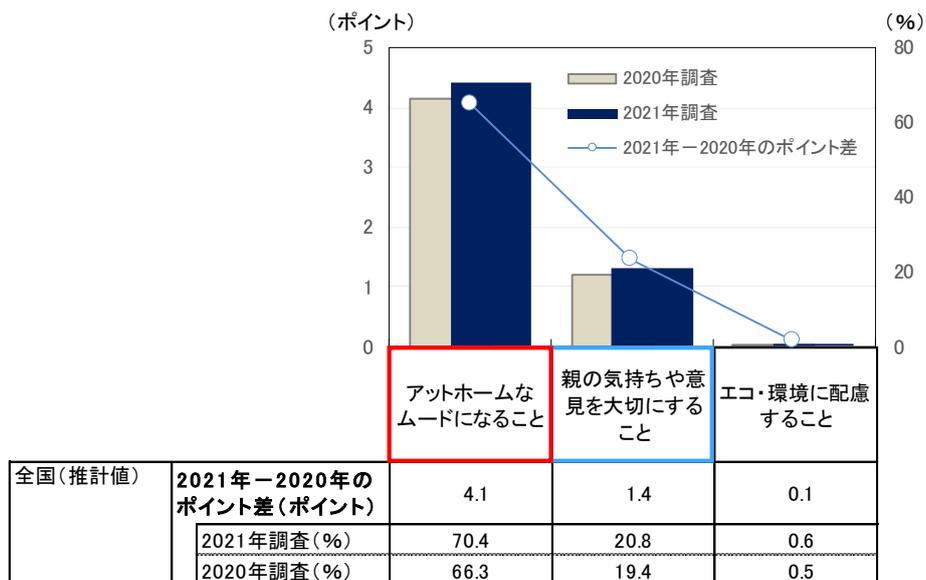
■ 新型コロナウイルス感染症による影響の内容（全体／複数回答）



3. コロナ禍による挙式、披露宴・ウエディングパーティーへの影響

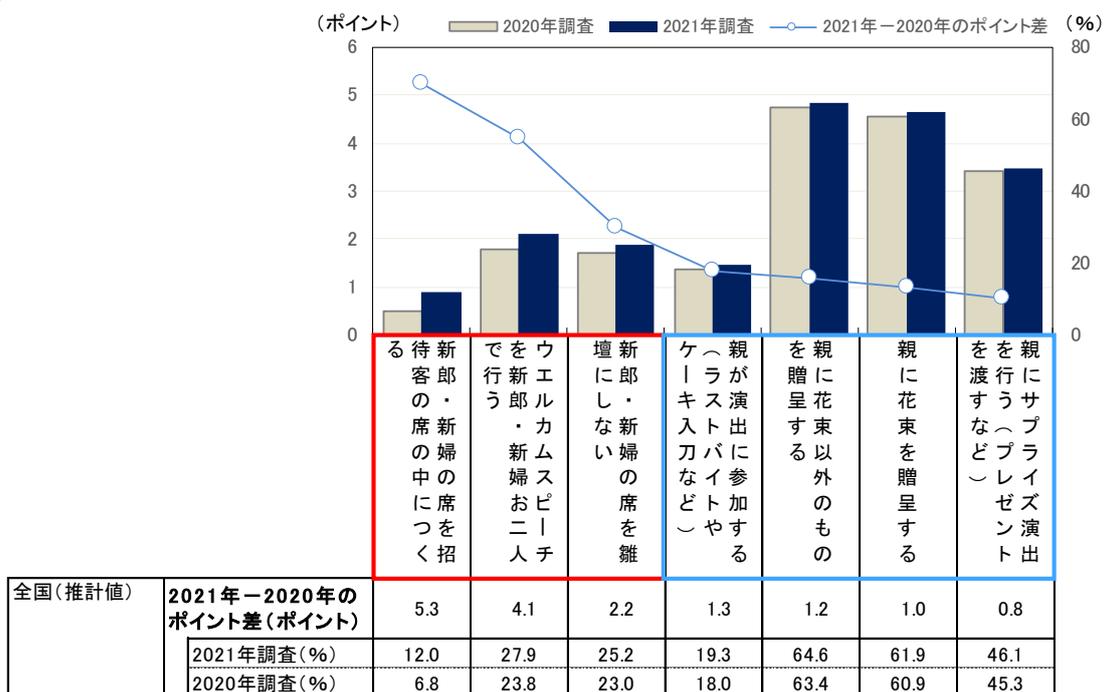
- ▶ 挙式、披露宴・ウエディングパーティーの演出を決定する際に心掛けたことは、「アットホームなムードになること」が70.4%で昨年の調査から4.1ポイント増加。「親の気持ちや意見を大切にすること」も、昨年の調査から微増。
- ▶ 披露宴・ウエディングパーティーに関して実施した演出においても、ゲストとの心理的な距離を縮める工夫や、親へのプレゼント関連が、昨年の調査から増加している。

■ 挙式、披露宴・ウエディングパーティーの演出を決定する際に心掛けたこと（全体／複数回答）



※2021年-2020年のポイント差の順にソートし、14項目中ポイント差がプラスであった3項目を表示

■ 披露宴・ウエディングパーティーに関して実施した演出（披露宴・ウエディングパーティー実施者／複数回答）

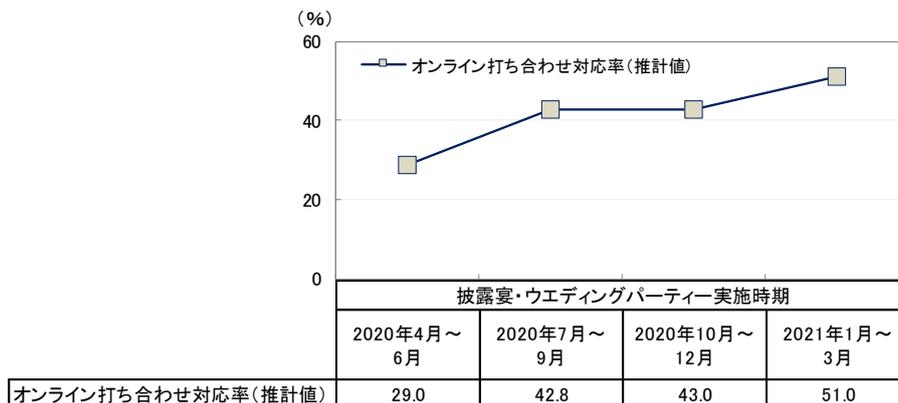


※2021年-2020年のポイント差の順にソートし、46項目中ポイント差がプラスであった7項目を表示

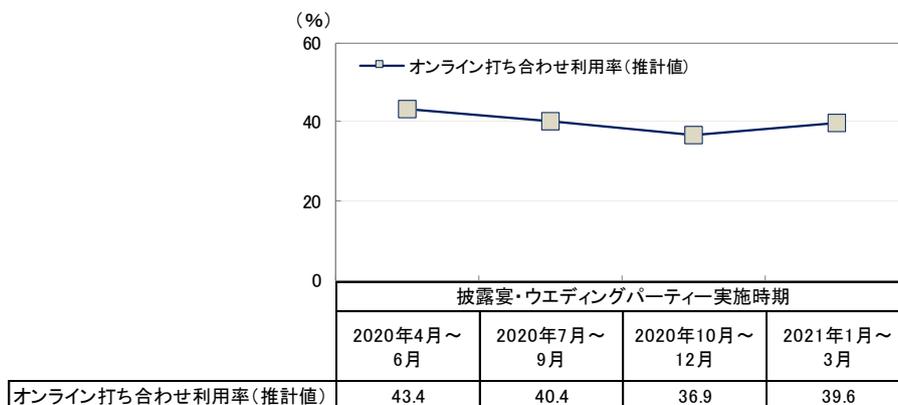
4. 挙式、披露宴・ウェディングパーティーにおける「オンライン」の浸透状況

- 「会場を決めた後の段階でのオンライン打ち合わせ」に会場が「対応していた」と回答した割合は、時期を追うごとに増加し、直近期間「2021年1月～3月」では半数以上が対応していたと回答。
- オンライン打ち合わせを「利用した」と回答した割合は、2020年4月以降、40%前後で推移。利用理由としては、5割以上が「感染症などでも安全に利用できるから」「実際に足を運ぶ時間を取られないから」と回答しており、感染症対策だけではなく実利的なメリットも感じていることがうかがえる。

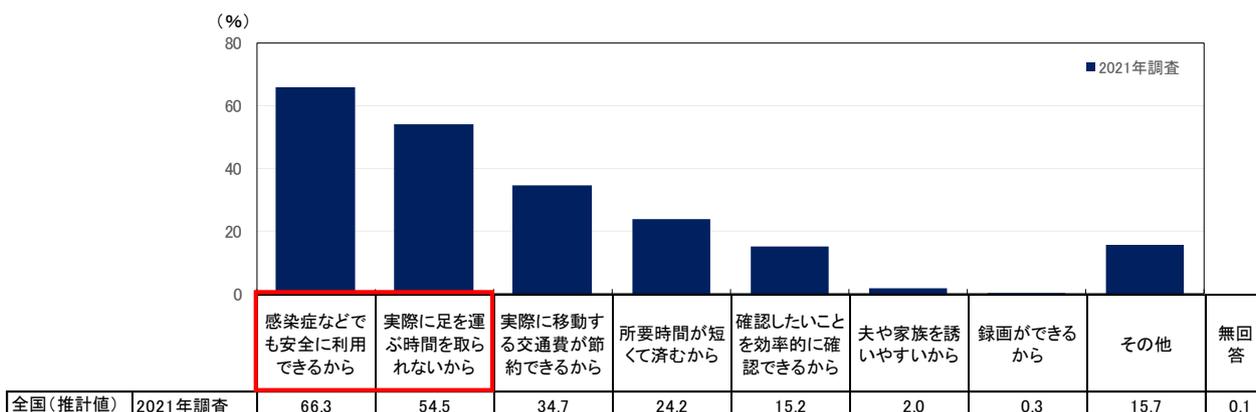
■ 「会場を決めた後の段階でのオンライン打ち合わせ」に会場が「対応していた」と回答した割合の推移（披露宴・ウェディングパーティー実施者／単一回答）



■ 「会場を決めた後の段階でのオンライン打ち合わせ」を「利用した」と回答した割合の推移（オンライン打ち合わせに対応している会場だった人／単一回答）



■ 会場を決めた後の段階でのオンライン打ち合わせを利用した理由（オンライン打ち合わせを利用した人／複数回答）

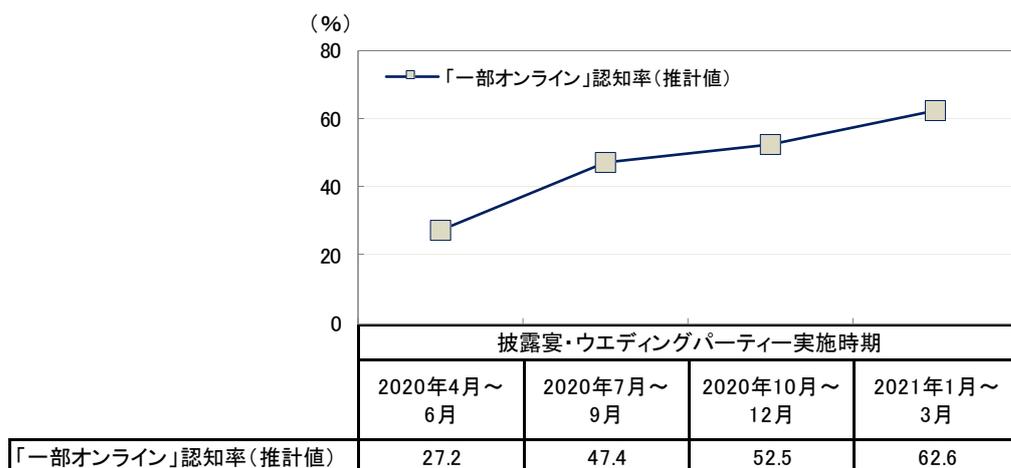


4. 挙式、披露宴・ウェディングパーティーにおける「オンライン」の浸透状況

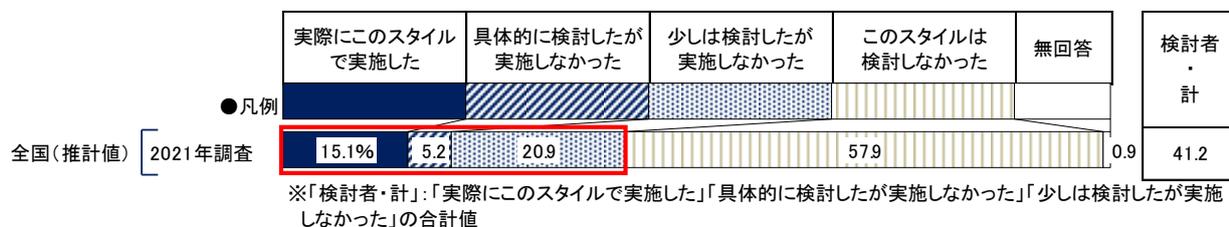
- 「一部オンライン」による披露宴・ウェディングパーティーを「知っていた」と回答した割合は、時期を追うごとに増加し、直近期間「2021年1月～3月」では6割以上。
- この実施スタイルを知っていた人のうち、4割以上が実施を検討し、実際にこのスタイルで実施した人は15.1%。

※ 「一部オンライン」：一部招待客が会場以外の場所からオンラインで参加する披露宴・ウェディングパーティーのスタイル

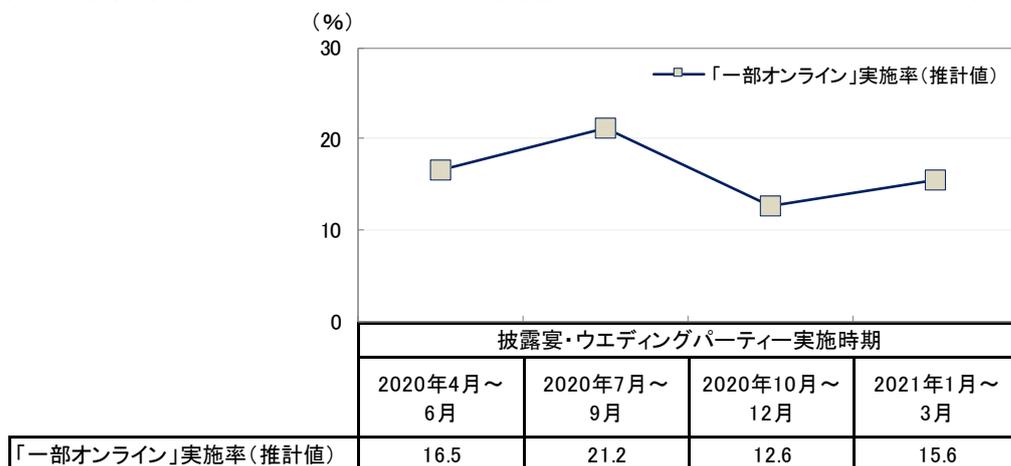
■ 「一部オンライン」による披露宴・ウェディングパーティーを「知っていた」と回答した割合の推移（披露宴・ウェディングパーティー実施者／単一回答）



■ 「一部オンライン」による披露宴・ウェディングパーティーの検討・実施状況（一部オンラインによる実施スタイルを知っていた人／単一回答）



■ 「一部オンライン」による披露宴・ウェディングパーティーについて「実際にこのスタイルで実施した」と回答した割合の推移（一部オンラインによる実施スタイルを知っていた人／単一回答）



4. 挙式、披露宴・ウェディングパーティーにおける「オンライン」の浸透状況

- ▶ 「相手の事情で実際に会って結婚報告できない場合は、オンラインでの報告になってもよい」という考え方について、「そう思う・計」は7割以上。
- ▶ 一方、「親しい人に結婚を報告するときは、実際に会って一緒に時間を過ごしたい」という考え方についても、「そう思う・計」は8割以上となっている。
- ▶ オンラインの活用に対して前向きな一方、リアルな交流へのニーズも依然高い。

■ 「相手の事情で実際に会って結婚報告できない場合は、オンラインでの報告になってもよい（病気や遠方在住、出産など）」（全体／単一回答）



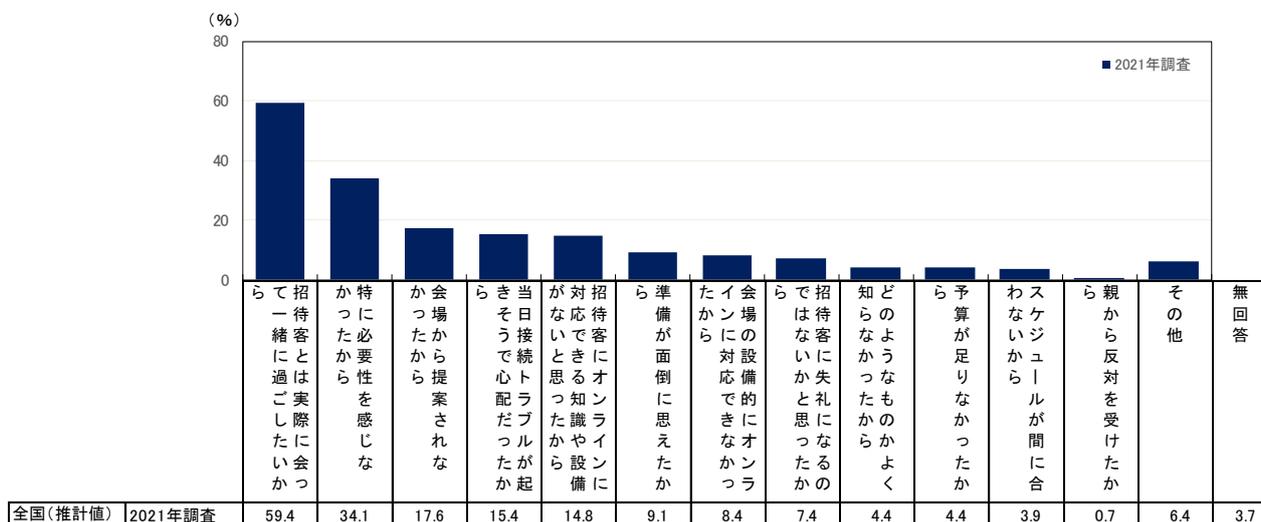
■ 「親しい人に結婚を報告するときは、実際に会って一緒に時間を過ごしたい」（全体／単一回答）



■ 披露宴・ウェディングパーティーにオンラインを取り入れなかった理由（完全オンラインによる実施スタイル、一部オンラインによる実施スタイル、パーティー内中継スタイルを知っていたが、いずれも実施しなかった人／複数回答）

※「完全オンライン」：招待客全てがオンラインで参加する披露宴・ウェディングパーティーのスタイル

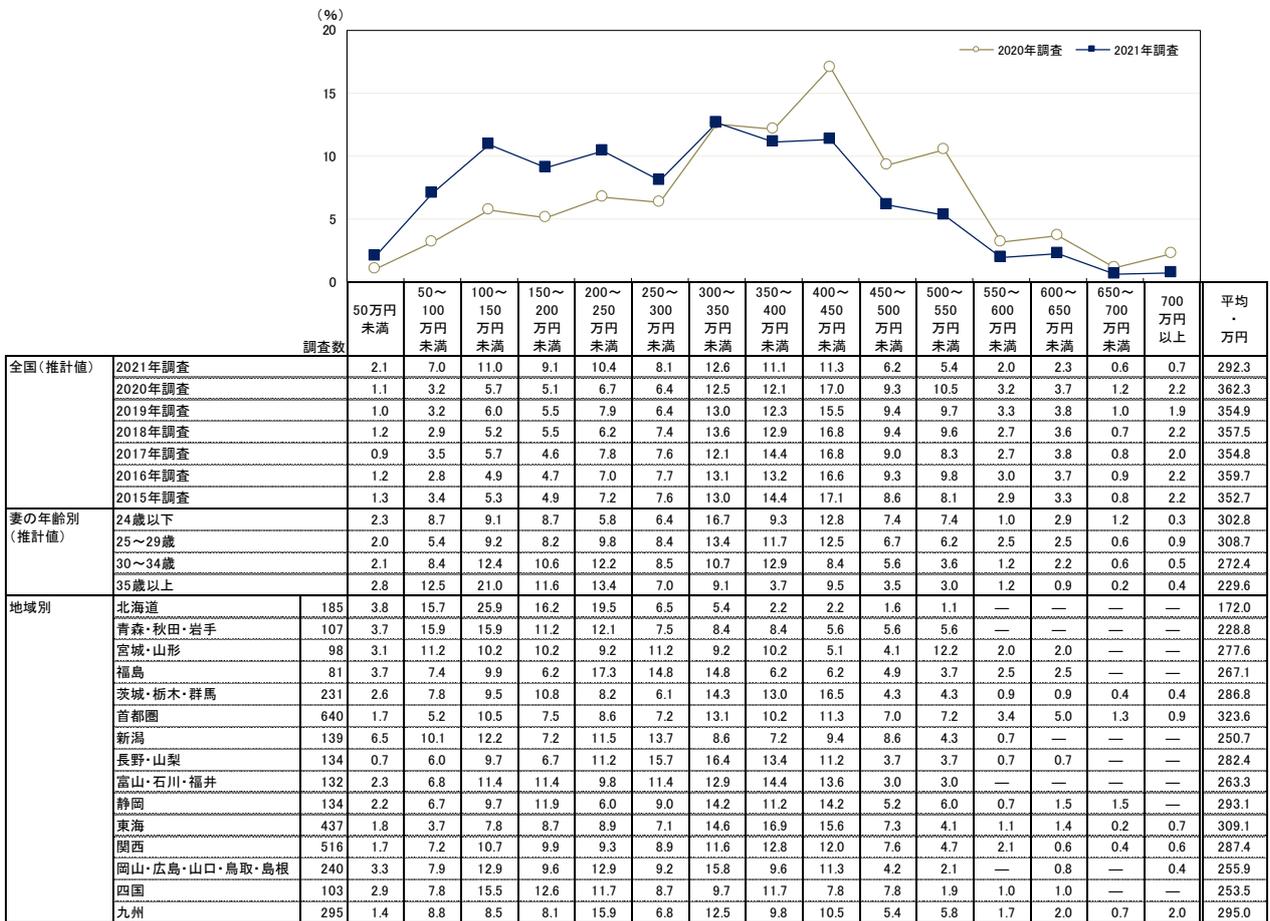
※「パーティー内中継スタイル」：招待客を複数の会場に分けてオンラインで中継する披露宴・ウェディングパーティーのスタイル



5. 挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額

▶ 挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額の平均は292万3,000円で、昨年の調査から70万円減少。

■ 挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額（金額回答者のみ／単一回答）



■ 挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額の平均の推移（金額回答者のみ／単一回答）

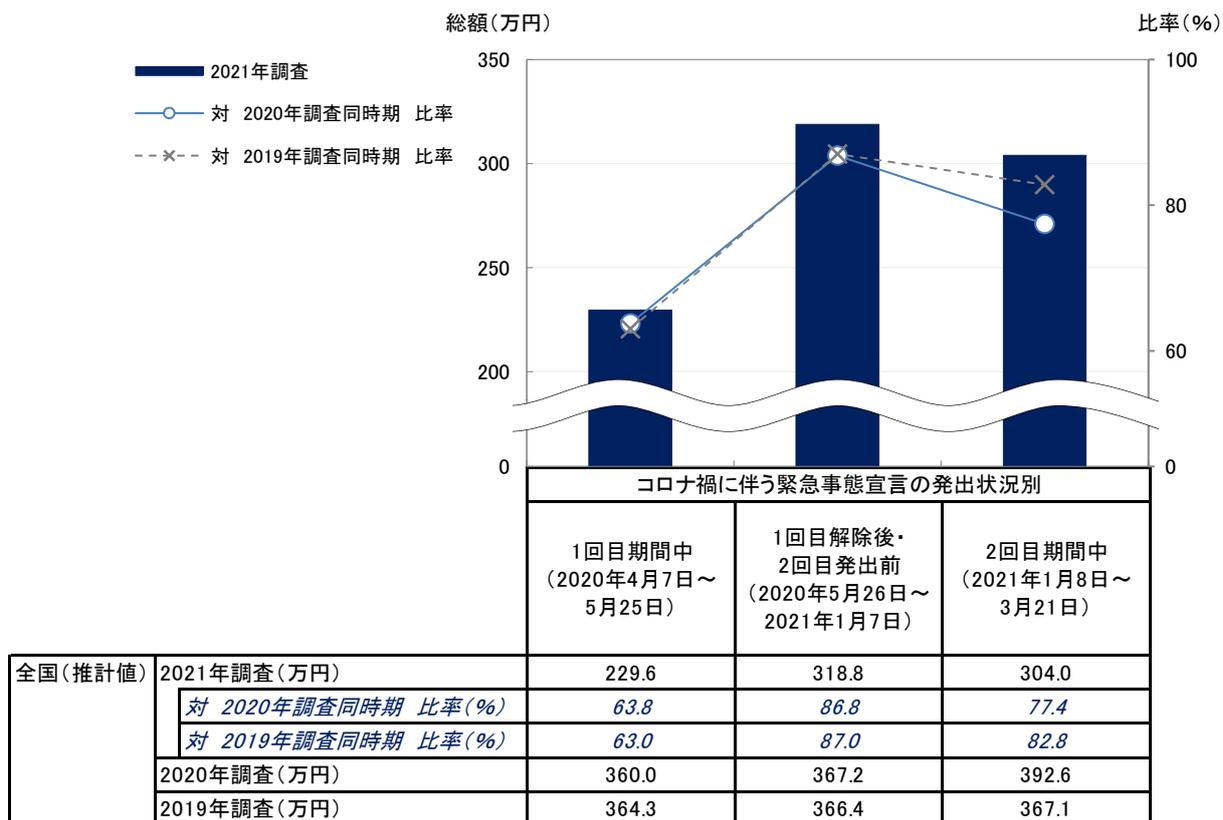


5. 挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額

- ▶ 挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額をコロナ禍に伴う緊急事態宣言の発出状況別※にみると、1回目の宣言期間中は対昨年比63.8%に落ち込み、解除後に86.8%まで回復。その後、2回目の宣言発出期間中には対昨年比77.4%と再び落ち込んだが、1回目の宣言期間中ほどの落ち込みはみられなかった。

※全国で1都道府県でも緊急事態宣言が発出されている期間を発出期間中としている。

■ 挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額の平均の推移（金額回答者のみ／単一回答）



※披露宴・ウエディングパーティー実施時期別に算出

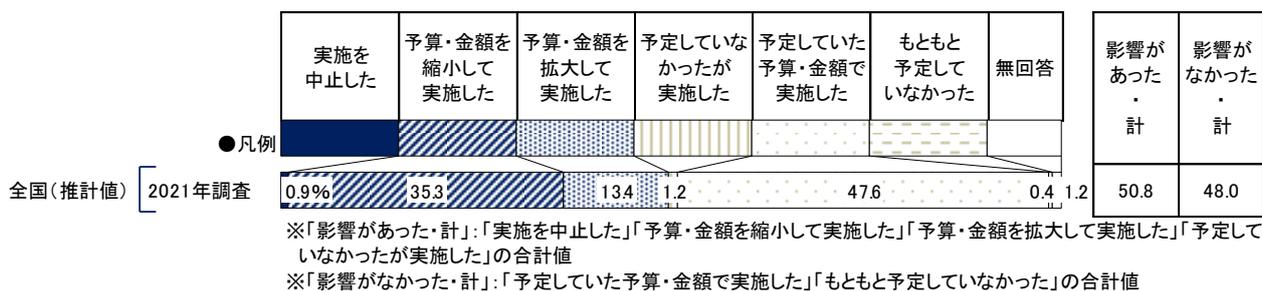
※2021年調査における時期でカテゴライズしている。2019年調査、2020年調査は共に、調査実施年の前年～当年の同時期でカテゴライズして算出

5. 挙式、披露宴・ウェディングパーティー総額

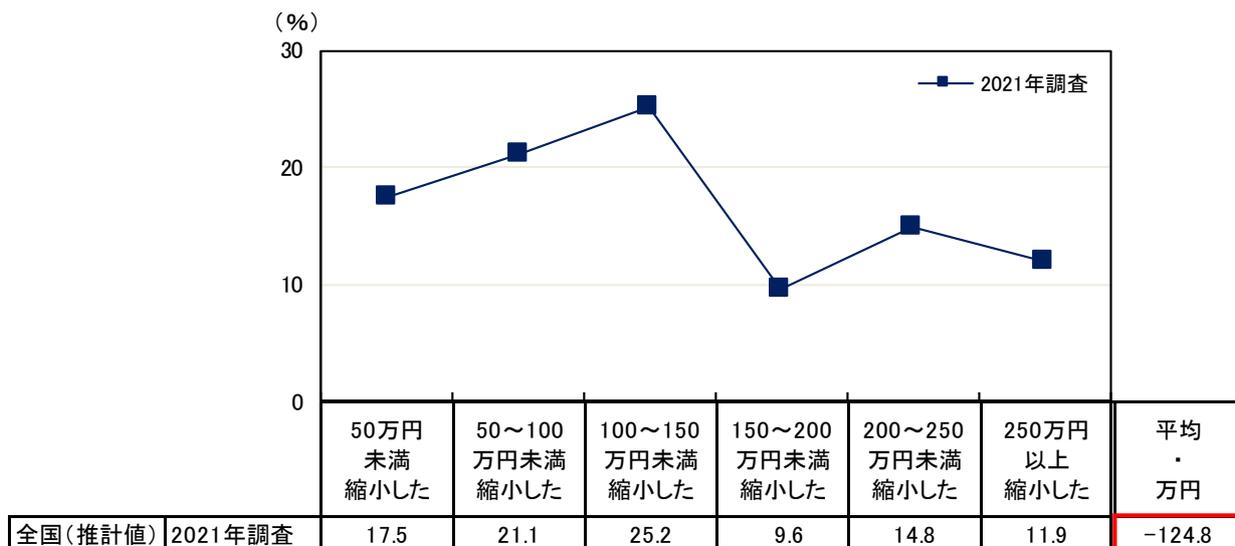
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響により、挙式、披露宴・ウェディングパーティーを「予算・金額を縮小して実施した」と回答した割合は35.3%。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定より縮小した挙式、披露宴・ウェディングパーティーの金額は、平均124万8,000円縮小となっている。

※全国で1都道府県でも緊急事態宣言が発出されている期間を発出期間中としている。

■ 新型コロナウイルス感染症による挙式、披露宴・ウェディングパーティーへの予算・金額面での影響（全体／単一回答）



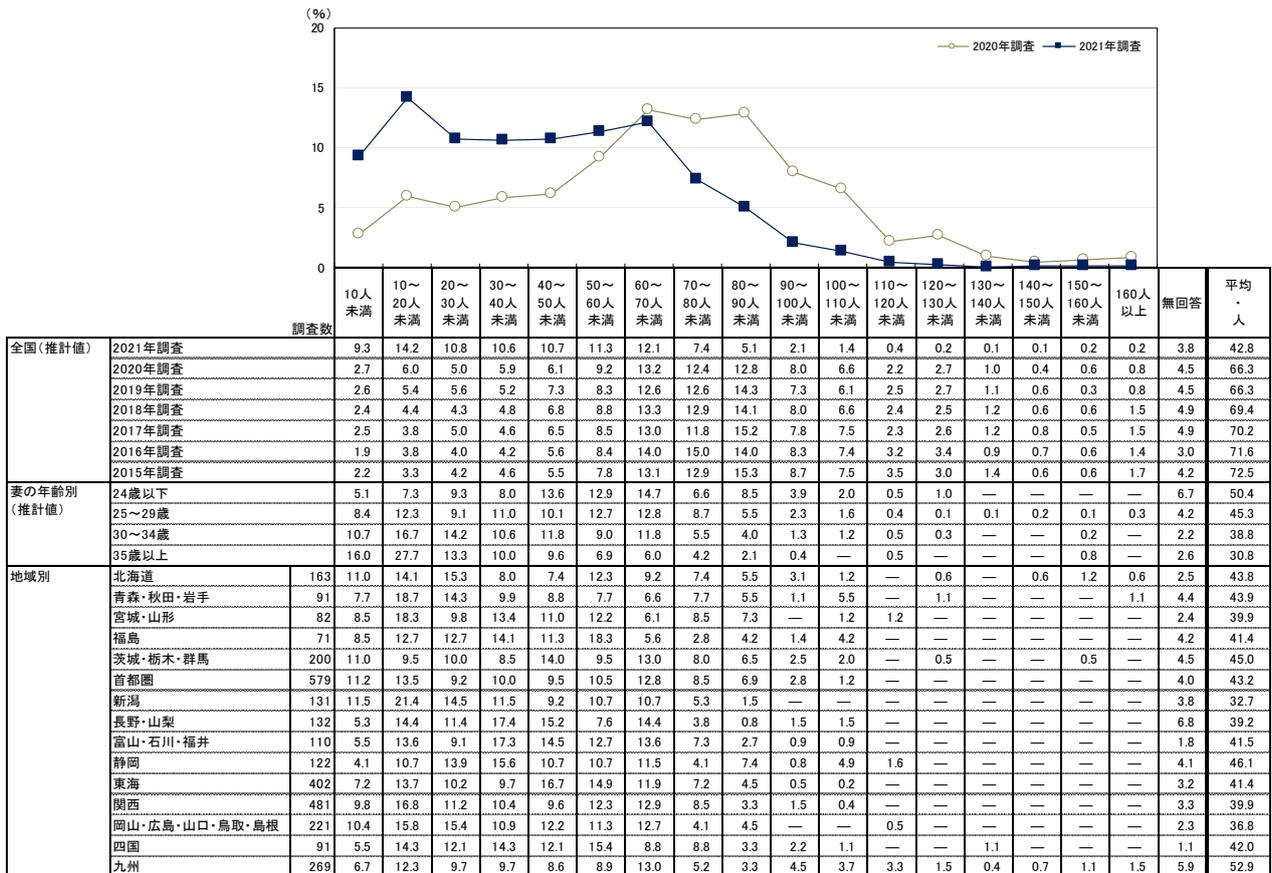
■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、挙式、披露宴・ウェディングパーティーの予算・金額を当初予定より縮小して実施した人の縮小した金額（挙式、披露宴・ウェディングパーティーで予算・金額を縮小して実施した人のうち、金額回答者／単一回答）



6. 披露宴・ウェディングパーティーの招待客人数

▶ 披露宴・ウェディングパーティーの招待客人数の平均は42.8人で、昨年の調査から23.5人減少。

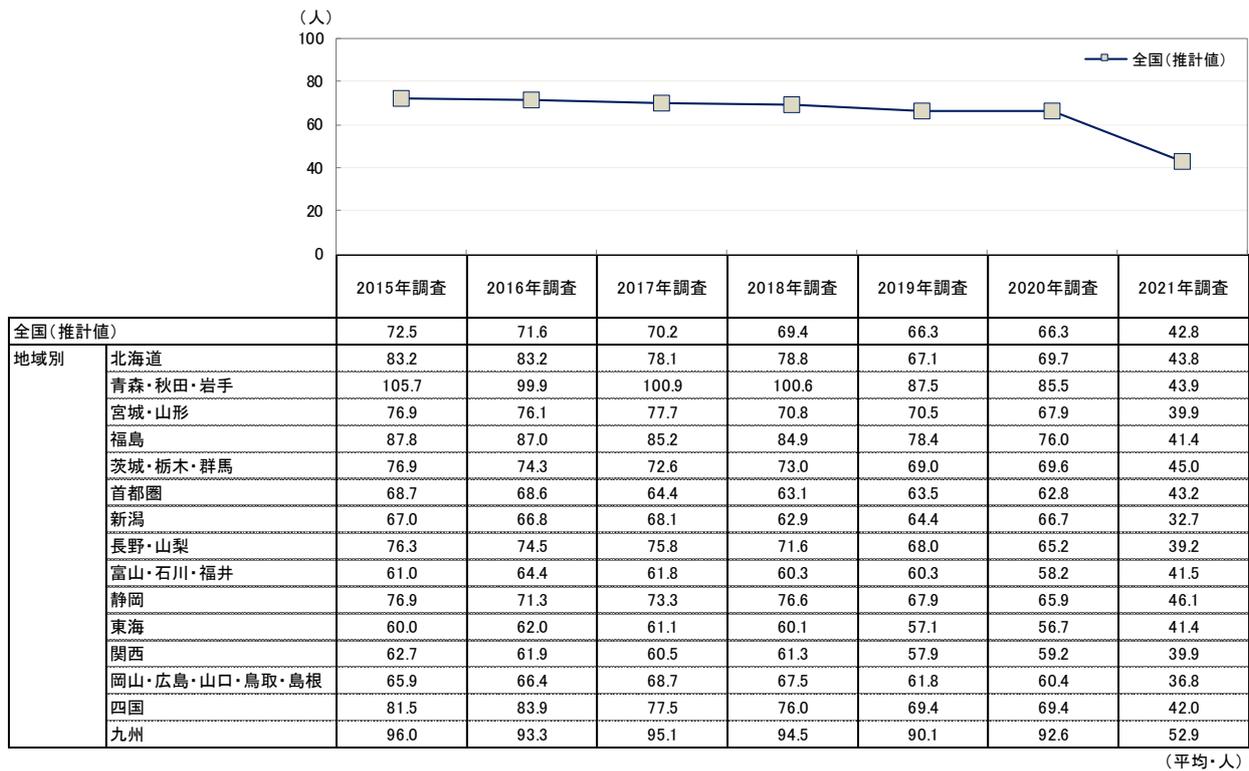
■ 披露宴・ウェディングパーティーの招待客人数（披露宴・ウェディングパーティー実施者／単一回答）



6. 披露宴・ウエディングパーティーの招待客人数

▶ 新郎・新婦との間柄による招待客別の披露宴・ウエディングパーティーの招待客人数は、いずれの間柄の招待客人数も昨年の調査から減少しているが、「親族」は減少率が最も小さい。

■ 披露宴・ウエディングパーティーの招待客人数の平均の推移（披露宴・ウエディングパーティー実施者／単一回答）



■ 招待客別 披露宴・ウエディングパーティーの招待客人数の平均の推移（披露宴・ウエディングパーティー実施者／それぞれ単一回答）

		2015年調査	2016年調査	2017年調査	2018年調査	2019年調査	2020年調査	2021年調査
全国(推計値)	親族	26.8	26.4	25.2	25.1	24.4	23.6	18.4
	学生時代の恩師・友人 (勤務先以外の友人)	26.1	26.6	27.0	26.5	26.2	26.8	16.0
	勤務先の上司・同僚	16.5	16.1	16.4	16.2	15.1	15.0	7.4
	親の友人・知人、近所の人	3.0	2.6	2.4	2.5	2.1	2.1	0.7
	その他	3.1	2.9	2.6	2.6	2.2	2.4	0.9

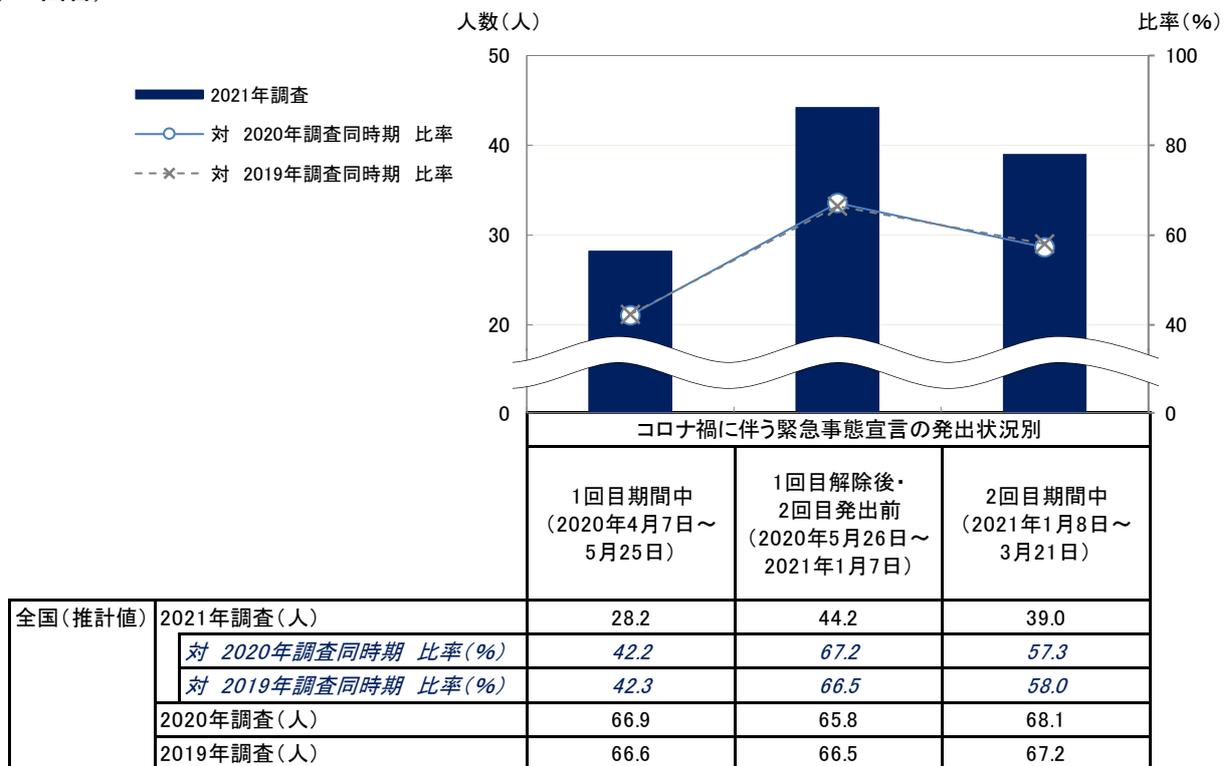
※招待客別人数は、「親族」「学生時代の恩師・友人(勤務先以外の友人)」「勤務先の上司・同僚」「親の友人・知人、近所の人」「その他」それぞれを回答した人の平均であり、各項目の平均人数の合計は、全体の招待客人数とは一致しない (平均・人)

6. 披露宴・ウエディングパーティーの招待客人数

- ▶ 披露宴・ウエディングパーティーの招待客人数をコロナ禍に伴う緊急事態宣言の発出状況別※にみると、1回目の宣言期間中は対昨年比42.2%に落ち込み、解除後に67.2%まで回復。その後、2回目の宣言発出期間中には対昨年比57.3%と再び落ち込んだが、1回目の宣言期間中ほどの落ち込みはみられなかった。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響により、挙式、披露宴・ウエディングパーティーを「招待・参加人数を縮小して実施した」と回答した割合は7割以上。

※全国で1都道府県でも緊急事態宣言が発出されている期間を発出期間中としている。

■ 披露宴・ウエディングパーティーの招待客人数の平均の推移（披露宴・ウエディングパーティー実施者／単一回答）



※披露宴・ウエディングパーティー実施時期別に算出

※2021年調査における時期でカテゴライズしている。2019年調査、2020年調査は共に、調査実施年の前年～当年の同時期でカテゴライズして算出

■ 新型コロナウイルス感染症による挙式、披露宴・ウエディングパーティーへの招待客人数面での影響（全体／単一回答）



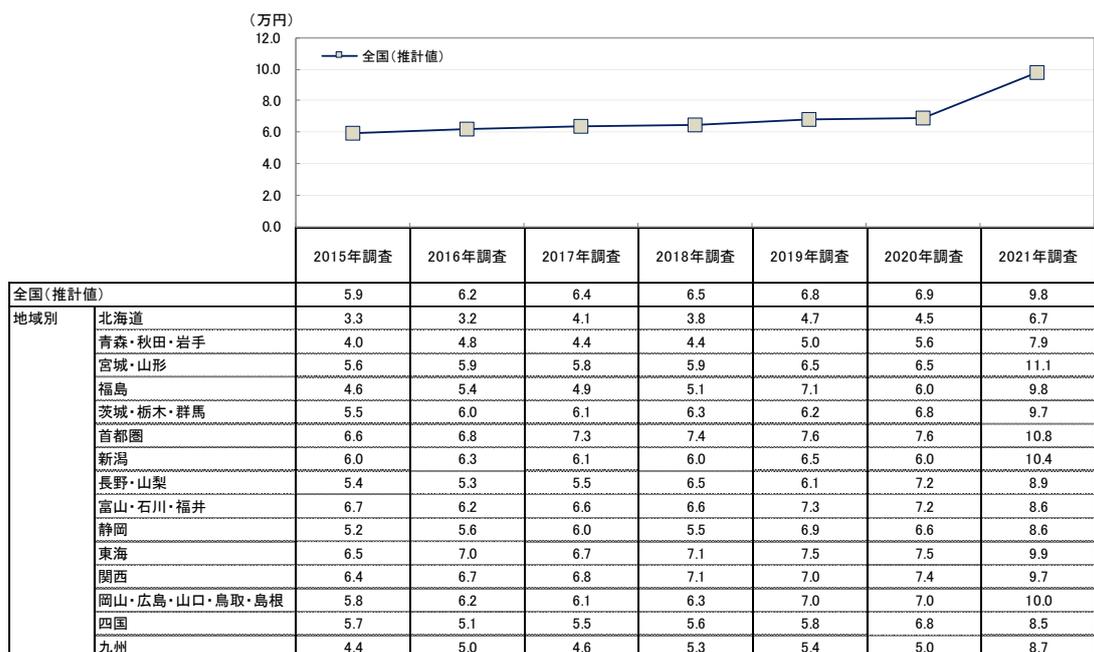
※「影響があった・計」:「実施を中止した」「招待・参加人数を縮小して実施した」「招待・参加人数を拡大して実施した」「予定していなかったが実施した」の合計値

※「影響がなかった・計」:「予定していた招待・参加人数で実施した」「もともと予定していなかった」の合計値

7. 招待客一人当たりの費用

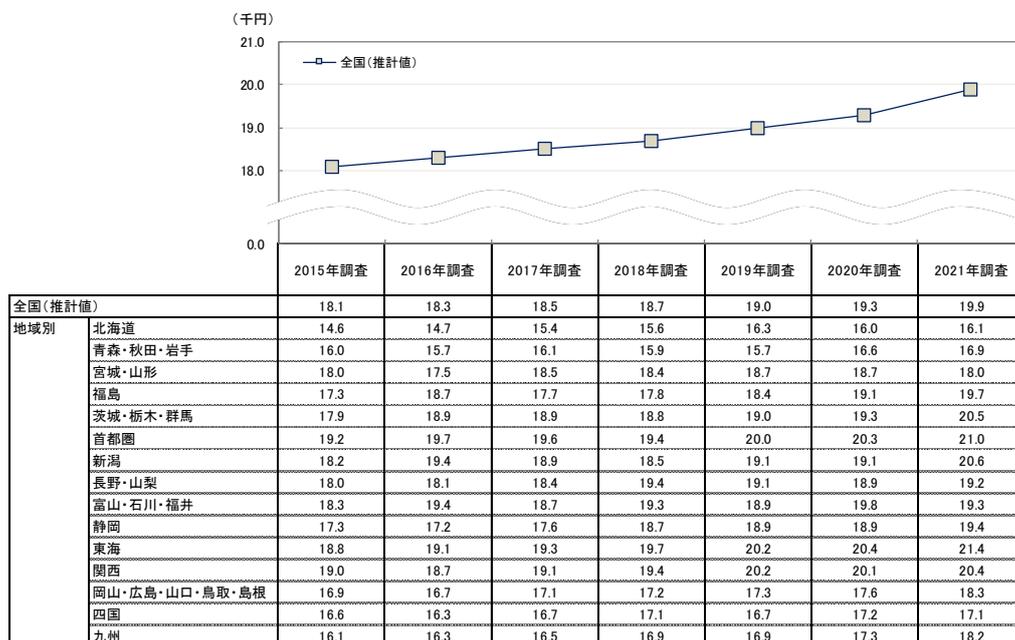
- 招待客一人当たりの挙式、披露宴・ウエディングパーティー費用の平均は9万8,000円。
- 招待客一人当たりの料理+飲み物費用の合計の平均は1万9,900円。年々増加傾向にある中、昨年の調査からは600円増加し、引き続き料理を通じたおもてなしを重視する傾向が高まっている。

■ 招待客一人当たりの挙式、披露宴・ウエディングパーティー費用の平均の推移（披露宴・ウエディングパーティー実施者のうち、挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額と招待客人数のいずれも回答した人のみ/単一回答）



※各サンプルごとに「挙式、披露宴・ウエディングパーティー総額(万円)」を「披露宴・ウエディングパーティー招待客人数(人)」で割って算出

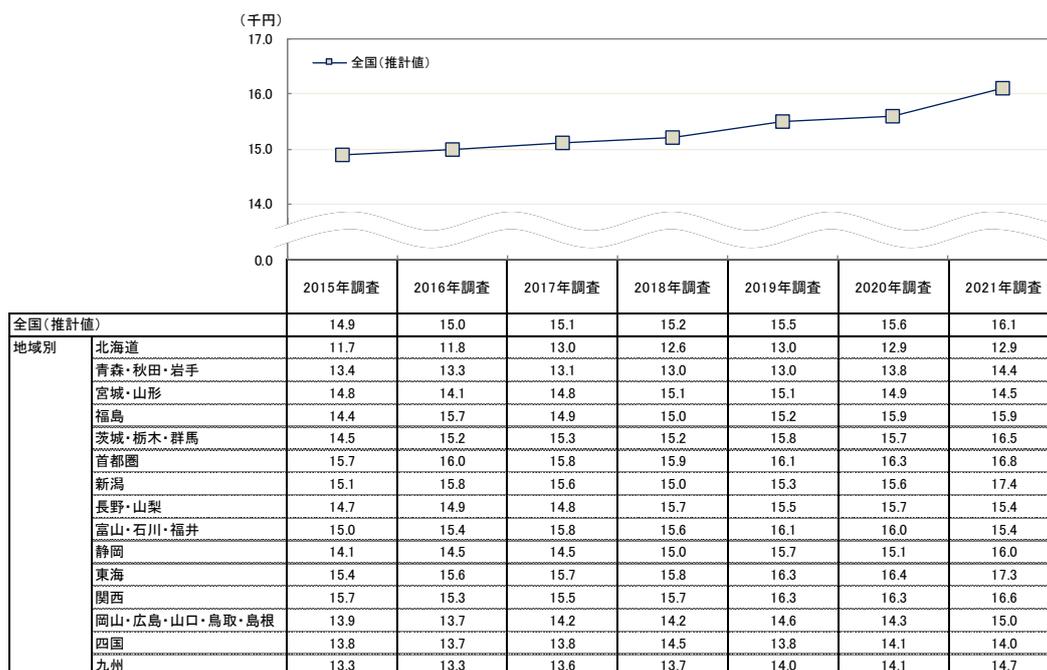
■ 招待客一人当たりの料理+飲み物費用の合計の平均の推移（披露宴・ウエディングパーティー実施者のうち、金額回答者のみ/単一回答）



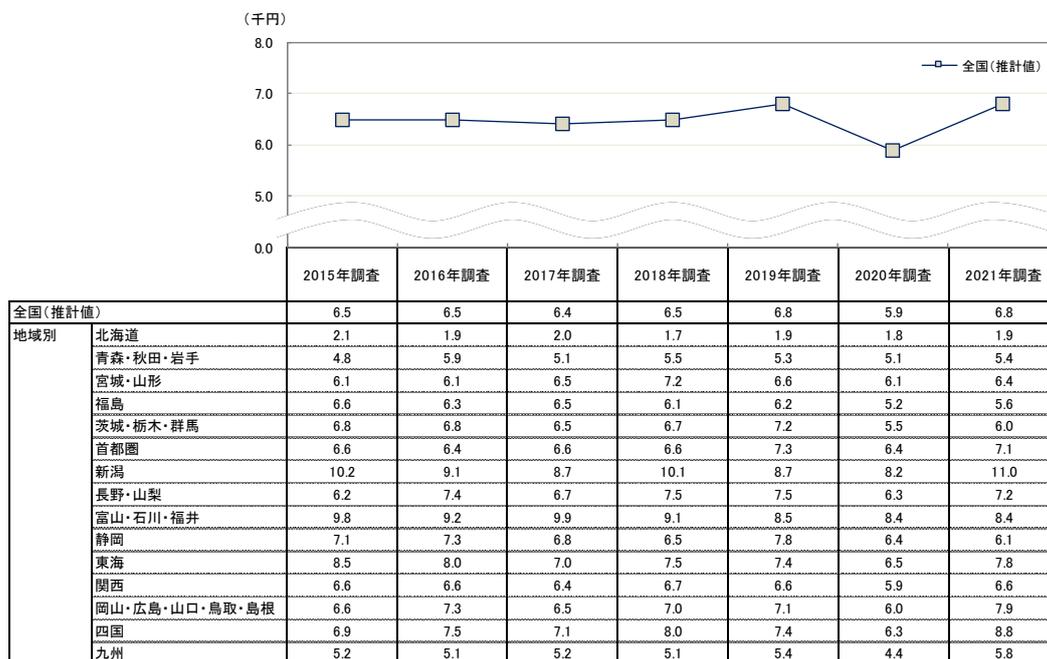
7. 招待客一人当たりの費用

- 招待客一人当たりの料理費用〔飲み物を除く〕の平均は1万6,100円で、年々増加傾向にある中、昨年の調査からは500円増加。
- 招待客一人当たりのギフト費用の平均は6,800円で、昨年の調査から900円増加しており、ここ7年間で比較すると2019年調査と並んで最も高い水準。
- 招待客一人ひとりへのおもてなしを重視する傾向がある。

■ 一人当たりの料理費用〔飲み物を除く〕の平均の推移（披露宴・ウエディングパーティー実施者のうち、金額回答者のみ／単一回答）



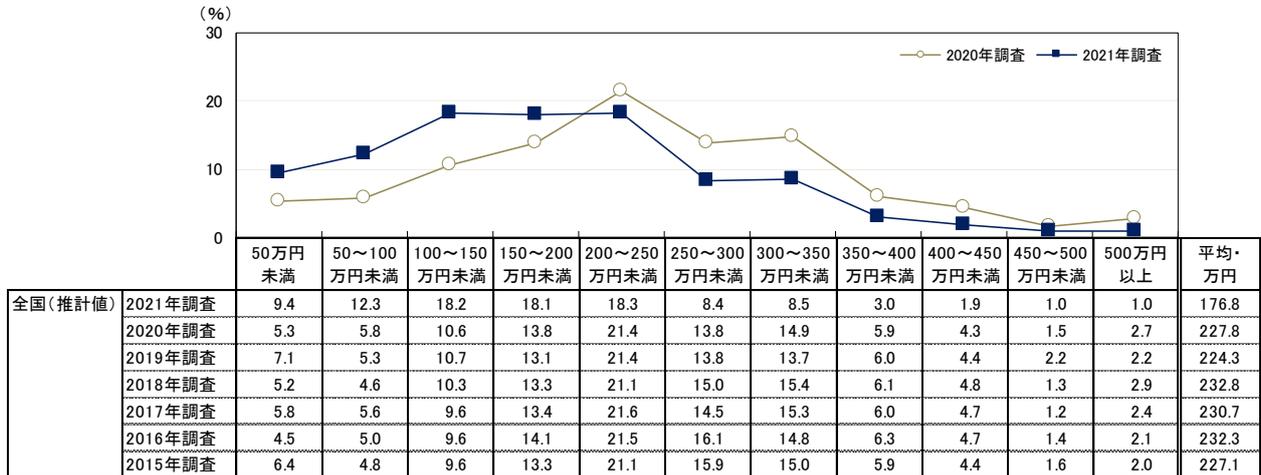
■ 一人当たりのギフト費用の平均の推移（ギフトを用意した人のうち、金額と用意数両方の回答者のみ／単一回答）



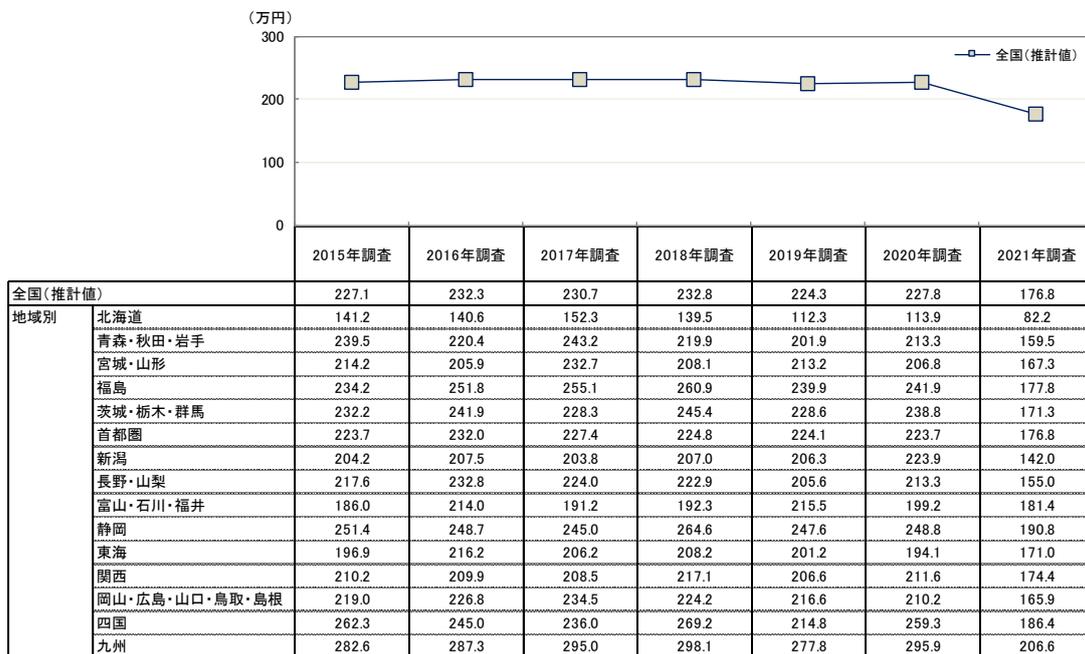
8. ご祝儀総額とカップルの自己負担額

- ▶ ご祝儀総額の平均は176万8,000円で、昨年の調査から51万円減少。
- ▶ 一人当たりのご祝儀額を招待客別にみると、昨年度と同水準以上となっている

■ ご祝儀総額（ご祝儀制の披露宴・ウエディングパーティー実施者のうち、金額回答者のみ／単一回答）



■ ご祝儀総額の平均の推移（ご祝儀制の披露宴・ウエディングパーティー実施者のうち、金額回答者のみ／単一回答）



■ 一人当たりのご祝儀額の平均の推移（ご祝儀制の披露宴・ウエディングパーティー実施者のうち、金額回答者のみ／単一回答）

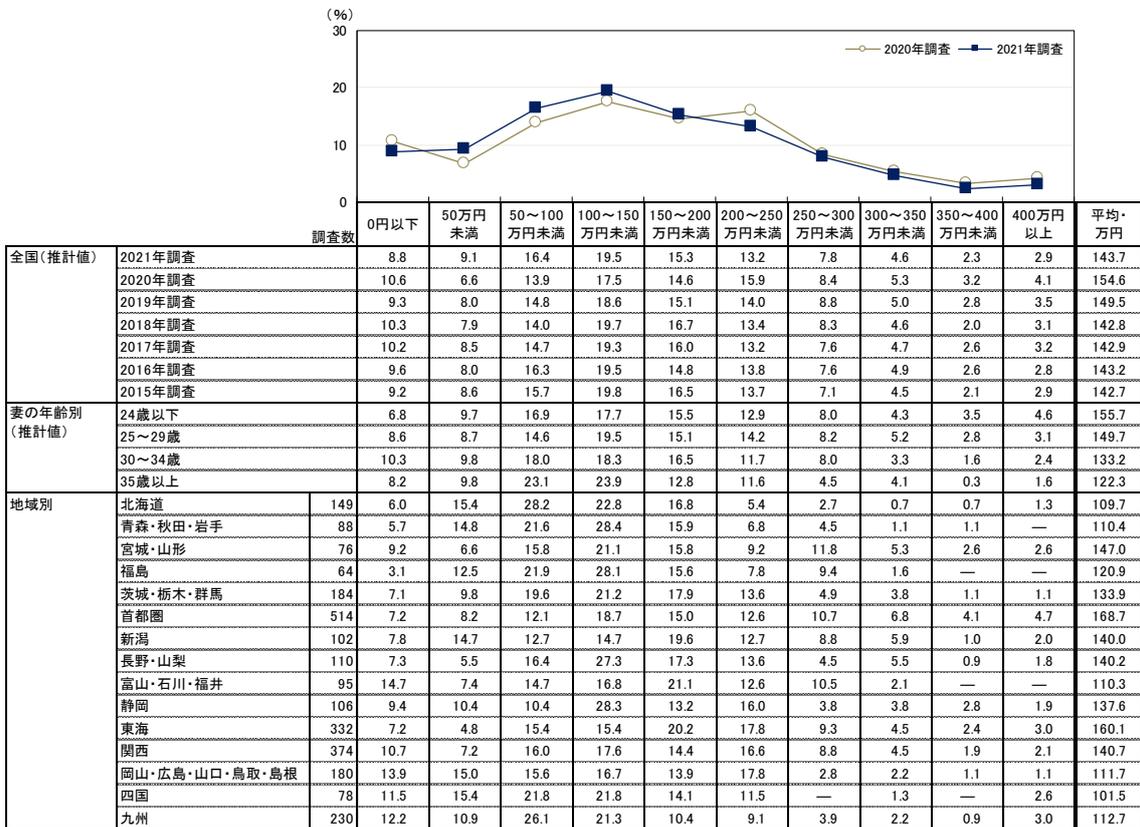
		2015年調査	2016年調査	2017年調査	2018年調査	2019年調査	2020年調査	2021年調査
全国(推計値)	友人・同僚	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
	上司	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	4.0	4.1
	親族	6.2	6.4	6.5	6.7	6.7	6.9	7.8
	恩師	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.8	4.1

(平均・万円)

8. ご祝儀総額とカップルの自己負担額

▶ 挙式、披露宴・ウェディングパーティーにおけるカップルの自己負担額の平均は143万7,000円で、昨年の調査から10万9,000円減少。

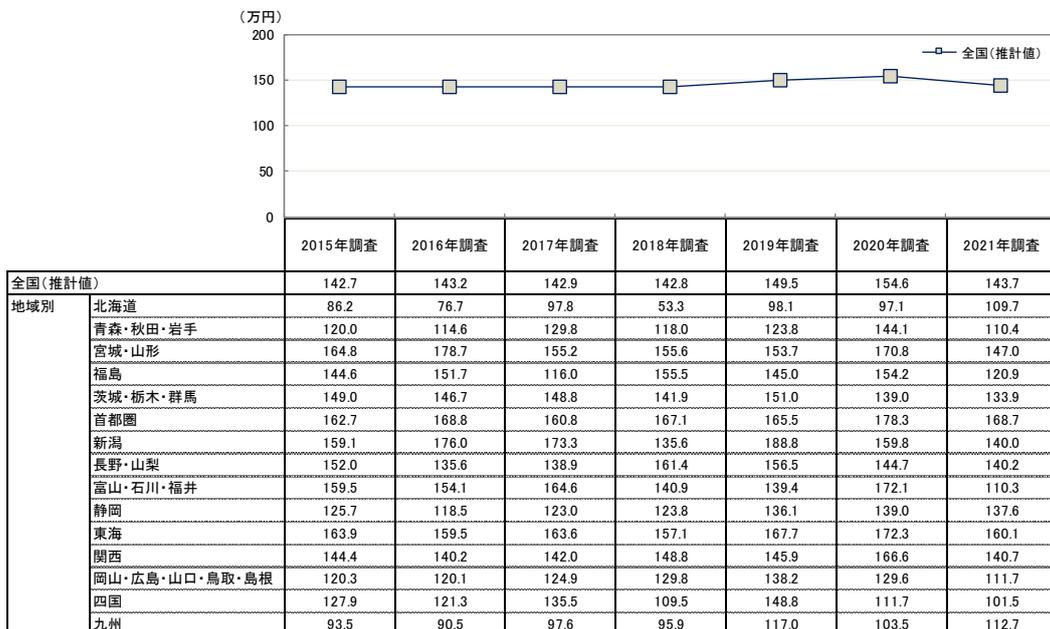
■ 挙式、披露宴・ウェディングパーティーにおけるカップルの自己負担額（披露宴・ウェディングパーティー実施者のうち、金額回答者のみ／単一回答）



※各サンプルごとに「挙式、披露宴・ウェディングパーティー総額(万円)」から「ご祝儀総額(金費総額)」を引いて算出

※「0円以下」: 挙式、披露宴・ウェディングパーティー総額とご祝儀総額(または金費総額)が同額および挙式、披露宴・ウェディングパーティー総額をご祝儀総額(または金費総額)を上回った人の割合

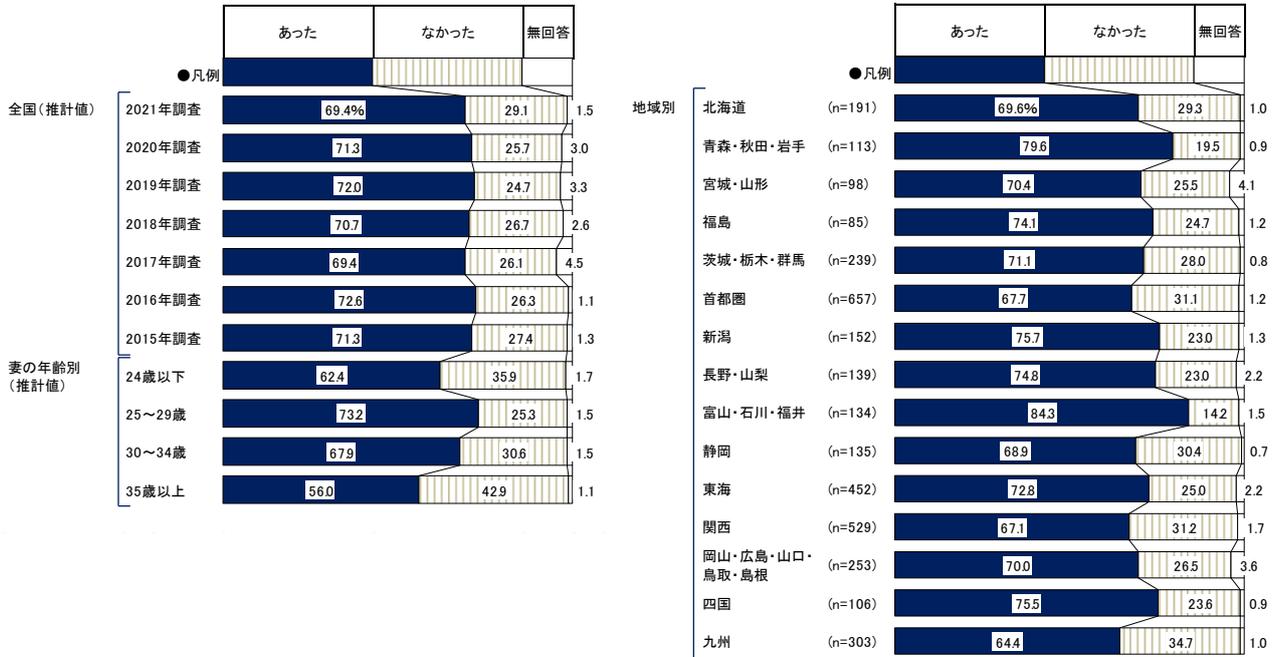
■ 挙式、披露宴・ウェディングパーティーにおけるカップルの自己負担額の平均の推移（披露宴・ウェディングパーティー実施者のうち、金額回答者のみ／単一回答）



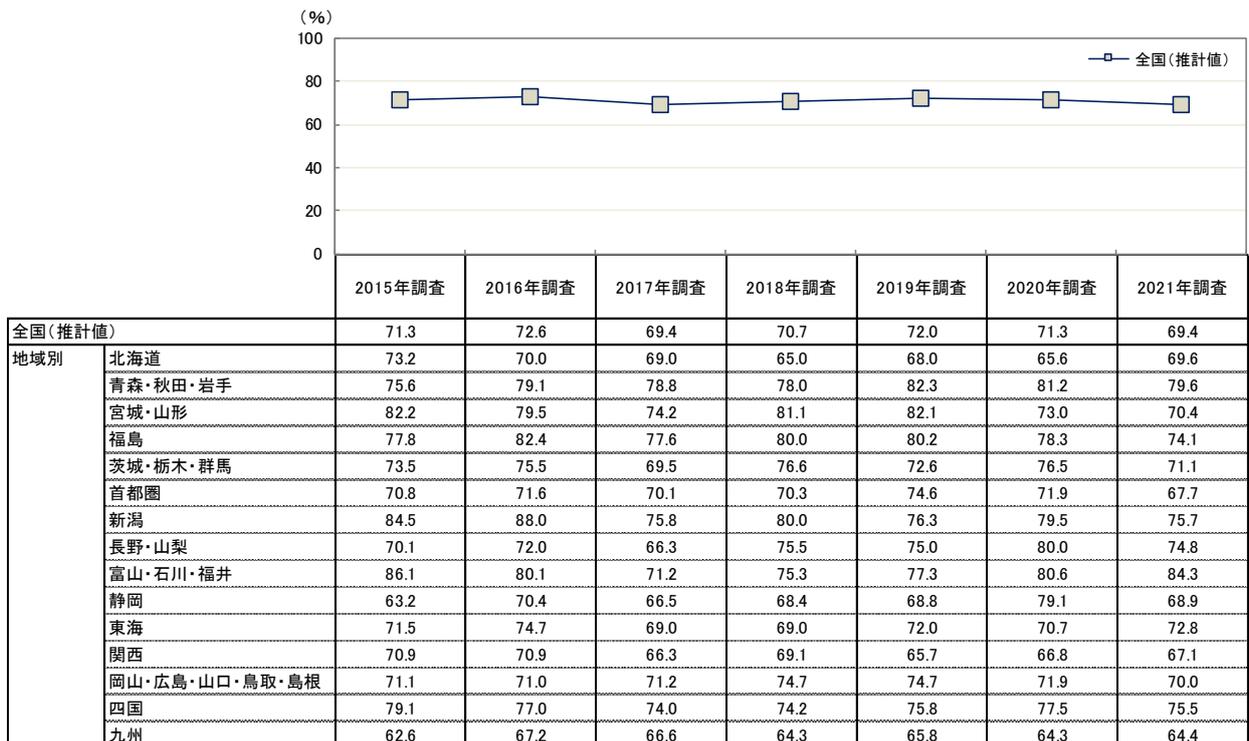
9. 挙式、披露宴・ウエディングパーティー費用としての親・親族からの援助

- ▶ 挙式、披露宴・ウエディングパーティーの費用としての親・親族からの援助があった人は69.4%。
- ▶ 昨年の調査から1.9ポイント減少しているが、ここ7年間の推移をみるとほぼ横ばいと言える。

■ 挙式、披露宴・ウエディングパーティーの費用としての親・親族からの援助有無（全体／単一回答）



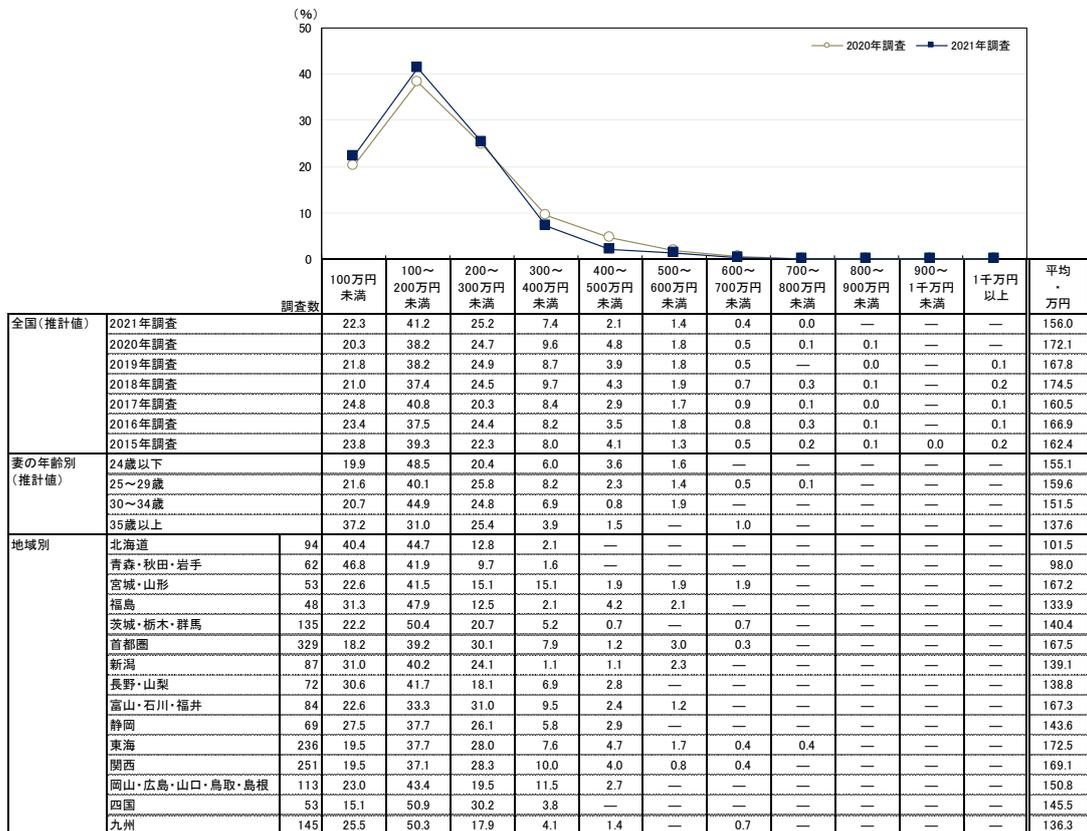
■ 挙式、披露宴・ウエディングパーティーの費用としての親・親族からの援助が「あった」と回答した割合の推移（全体／単一回答）



9. 挙式、披露宴・ウェディングパーティー費用としての親・親族からの援助

▶ 親・親族からの援助額のうち、挙式、披露宴・ウェディングパーティーに使った金額の平均は156万円
円で、昨年の調査から16万1,000円減少。

■ 親・親族からの援助額のうち、挙式、披露宴・ウェディングパーティーに使った金額（親・親族からの援助があった人のうち、金額回答者のみ／単一回答）



■ 親・親族からの援助額のうち、挙式、披露宴・ウェディングパーティーに使った金額の平均の推移（親・親族からの援助があった人のうち、金額回答者のみ／単一回答）



コロナ禍の結婚式は自己肯定感と絆を高め、結婚式の中身はゲストへのおもてなし志向が高まる結果に



『リクルートブライダル総研』
研究員
豊澤 美佐子（トヨサワ ミサコ）

今回の調査は、コロナ禍の2020年4月～2021年3月に結婚式を実施した方が対象となっています。その影響を受け、挙式、披露宴・ウエディングパーティー費用総額、招待客人数は、昨年と比較して減少しました。一方、結婚式を通して得たこととして、「自分の人生が好きになった」と答えた方の割合が昨年調査から6.4ポイント増加しています。また、9割以上が、「人生の節目である結婚に際して結婚式を行って良かったと思う」「結婚式を通して、二人の絆が深まったと思う」「結婚式を通して、列席者から二人が応援されていると感じた」と回答しました。

このような自己肯定感の高まりや、絆の高まりの背景としては、結婚式を実現するまでの過程が影響していると考えられます。結婚式を実施した方であっても、9割以上が結婚式を実施することに対して迷った、と回答しています。また、入籍から挙式までの期間は、2013年調査以降、最も期間が長い、という結果になりました。

結婚式の実施を迷い、実施を決断するまでにどのような過程があったのでしょうか。きっと、自分自身の過去や二人のこれからの人生に向き合い、今までお世話になった方の顔を思い浮かべながら、「今の時期になぜ結婚式を実施するのか」、結婚式を実施する意味を二人で話し合う時間が、例年の新郎新婦以上にあったのではないのでしょうか。また、周囲の方や招待する方に対しても「なぜ今、結婚式を実施するのか」「なぜ結婚式に参加してほしいのか」を丁寧にコミュニケーションする過程があったはずで。その上で、周りの方の応援と支えがあったからこそ、結婚式の実現に至ったのではないのでしょうか。だからこそ、結婚式を実現できた際に、「結婚式ができて本当に良かった」と、二人が周りの方と喜びを分かちあうことができたのだと思います。これらの、一つ一つの過程が、自己肯定感を高め、そして結婚相手や周りの方々の絆を高めたのだと思います。

自己肯定感が高まるという「自分軸」が強まったと感じられるかもしれませんが、実際の披露宴・ウエディングパーティーの内容は、「ゲストへのおもてなし志向」が高まる傾向となりました。例えば、招待客一人当たりの料理単価、ギフト単価は、共に昨年比で増加しています。また、規模縮小による密の回避やソーシャルディスタンスの確保を余儀なくされたコロナ禍での結婚式ではありますが、実施した演出においてゲストとの心理的な距離を縮める工夫や、親へのプレゼント関連が、昨年の調査から増加するなどの傾向が見られました。

今の時期に結婚式を実施するからこそ、そして大切な人に出席してもらうからこそ、しっかりとおもてなしをしたい、という新郎新婦の気持ちがかがえる結果となりました。

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、メディア&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、4万6,000人以上の従業員とともに、60を超える国・地域で事業を展開しています。2020年度の売上収益は2兆2,693億円、海外売上比率は約45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人一人が輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここがない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>